今川一睡記

全

1557

饗庭文庫

今川一瞞記

一之巻目録

第一 足利高氏公治世乃事

付 高氏義之守師也一信ヲ加ヘル事

今川孝宗千寿君ノ代守役義之

第二 勝忠ヶ使ヒ小坊子ヲ殺事

付 加山十内徒先乃働乃事

三枝の高忠下向ヲ事

饗庭藏書

1557

第三

師安禅師を公事を裁事

付り 弘法大師の出家後別る事

真言 彼絶の法 他宗の事

第四

駿州金原を義堰を穿事

沙門の憤よりて実をとぐる事

付り 佐州吾の白浜よりの造営の事

第一

足利尊氏公治世の師老加増の事

付り 今川孝家午書君の仕守復命する事

上宮太子の憲法より曰。私より育て公よりむしろ治れるなり。凡人
ものいふ事あるべからず。慎あり。時いかるべきのかず。強い私と
ものいふ事なかれ。公をこそ。強く人ねたむる事ぞ。家は足利の尊氏卿
とともに公しに軍功多くして。ひでよふてびせよ太平をうこと
あ治よ。濃代の麿くよ。吉良石堂。畠山。今川。新波細川得絶る
の奮臣。無事忠怨の信を尊し。天下の政務を補佐しなり
き。中ごろ尊氏卿の師老。家を。尊氏卿よりとびての弱なり。ものを
探るよ。尊氏卿いまぐ方丸とりて出家の時。よりて出附人
三人。三人といふ新波細川。新波行拍ハ代の大老なよ

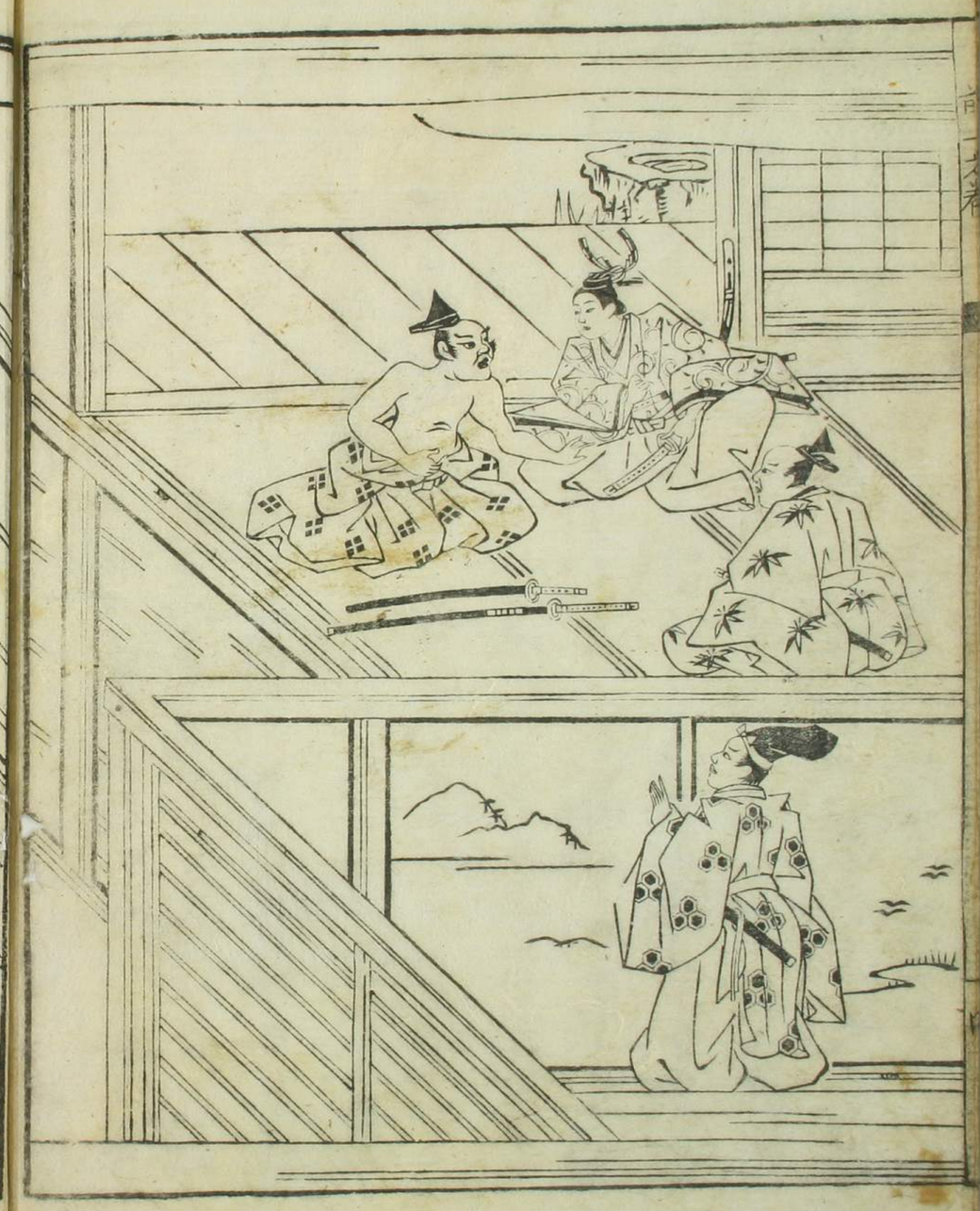
る家ゝして。威徳くらべつゝ。又細川播磨守生得の氣質やうくふて。万事我のれ側ちく勢多別きりて。何事とるされんと。あるは敵のおもにきて。いさくれんやたゞ事かこれよりて。我をれんやもくおぼしめして。音無さとよ播磨をよれ拙くらるまれどくい事かし。

それ敵のうちよ自然よ為しうらざるれ。金わる時ハ。今のる武蔵守殿ゞ親師冬。事くしくれ美丸をゝ。所和引の神よんべる時い。

三男乃勝拙を投もて大きゞをわゞ。我の中ハ膝のうへをのり切りつゝて。大ゞ多をなげてきり。色かどさにくりうんず。くゝ事の奇怪よを伝らハれまらるべしと。音氣とをせてゝを細川播磨守へ入て。いろくと師冬をゝぶかゝして。そ拙ハ我よむらへふを言師冬強氣なれ美丸のゝなげやゝぶて。ゝれ立後よゝゞめさん。きりゝ師冬

ゲヤごとくゞゆくようれ拙奥うる義を新波切ゐんどうけ強りるべゝ。我よハ切とゝりのくさゝるべきゝゝまゞ切ゐゞ拙ぜぬうちよハ止ゝるべし。色つのりてあそでされるべゝ。師冬きり切ゐへ。苦ゝ切ゝ出ゝ用きるべしとゝなげめ出べゝきれ氣合の強ゝ色ゝ条よきゞひ強いすこの中あやまりをとひるゞべし強ひぬ氣を三人の中ゝ。言師冬をハ婦ひるされてゝのちくきれ初り毅ゞゞ

さゝ出ゝる。拙三人の若ゝハ我をちゝその人今ハ逝去して皆ゝ子孫代とゝりて。おゝゝずハ生ゝを勅伝ゝりさゝくゝ言民卿の出ゝ家ゝ武家及よ。生涯の独附人をと。ゝ毎ゞくれ出繁かゝるくにつけてハ身ハ出をおぼしめ出ゝ出ゝ強ひ。ゝくゞハ出ゝ出ゝ多ゝ。ゝとそい三人の若ゝ後命を長し。強くゞ作氣をこゝらへ。ゝ人ハ拙ようまゝずして



我よこへぐるま。一人は我と同後年よりも所をおのれ。今一人は
若菜をのぐさず。年くしく我と夫婦のちぎりをなし。三人の忠義いづれを優
といひぐさ。中ゆをだのして。師匠の義をもちて。をとこをぬ雅失
足。我万一あやまりてをうちかどよせば。余をとる仕来。後代見物を
さいわいその面目。況一のたはるべし。我南方の義よ合ざるとて。爲冥
よりひ猟をもうろく。対し年。武育の恥辱。師匠がゆんあこそ
ちぐりれとぞ。蒲源のうへ今の師匠が先へ出されて。おのれん座を沙
汰しなされ。又夫の知行二倍のれ加増あつて。一万貫をそりさ
せ。新波行拾ぐ万八千貫のれ知行。細川勝元が
跡へ勝元八千貫のれ知行ありしが。夫人と親くが意切をあ
りて。夫づつれか場。源よりあこがこそ。そもそも

所をせこ財ありさ。ちぐりし四不役よおがりり。ちぐ一のそ敵
を中のよ座よ行分れ。ろ。母子の恋人。今川者家を川西元。
得強家郷をぞれ附かされ。ろ者をちくわ西をちりぐけ。名ねよ
ちそ。ア世の御をあいく。まく冥がよけひろ答と上をを信
れおを退出志ひろ。中よを今川者家へ下城して宿あよ海ろ。
の川寄り役大切ろ役目とんよ源くぶひ西。度あよ人古人の重賢乃
主書と。夜もをぐろかぐ入。現ふよも者恵を長ろ。陸ろうろ。横雲
しろ川はあれや。赤尾源をつ。ろいよ浪人初よ見武器。内三稿と
いよ年とまぬ。とありぬ。三稿を京伯源よ。武者よ。東勤ろ。ゆ人。ぬよは
三稿と行度とせよろ。ぬ。ひけ。源ろ。ろ人は社交のうせ。ん。三稿を京よ
のうちろ。ハ落合。ろ下。長。遠交のうちよ右座田乃邪へ。ろ。伯し

下の方より紙川揚右衛門あい横より仕出さるる少人揚右衛門
出行たるこれ為めらるのあと。源氏方を手柳と。源氏方の馬
ぐるくわさうちに先出行のあとを一人切殺して。血刀をうつて
逃もりる。揚右衛門家来あまさじと追ちる。源氏方八郎武蔵
師走ゲ鍛の門より入て。南付武蔵さうん切ゆ出殺をあらけてうけ
うんぐり。只今人をうつて立のくるの。一命を出たどけ下されよとで
たのをる。師走ゲ有り下婢して。いまご家来共玄関よりと
それで。源氏方をたうふんて。ぬかどたのまれうり。師走ゲ一
命をうけてを。を方をあいよのうこへうさうでと世よたのをしく
いうをけ。源氏方こいまぐでをを後の出しくだ。ちうべ門の出ち
をを下さうべ。いづをの出方をねどを。大ぜいの弟子ゲ

伐れだ。れ為をををうぐりをうをん。の方後をを裏へ出入下さうし
とりそれで。師走ゲをうをうして。南付武蔵より対して武をたをん大名
かぐへ。ぐをぐ月ん。をうを及ぐ。ちうを方人新をまづうをべ
しと。源氏方を裏より入。を月を部の屋あり。て酒飯のりより。鍛
の入門のうちのをを。ゆのあを世よ。人武対ちる五をを八対こん
ぐうをり来ぐべ。ぐ月ぐをを八師走ゲうをまへて。ぐ屋敷より体医
まうりあるのうを。ぐ抜より家来みゆれをりせを。お抜の部屋
をういつけてぐをうをべぐうをん。武蔵ゲ不歌せうを
おをうんへをうを

第二

お山十内捨先働の事　付り揚右衛門役を小坂の事

彼捨をうをて。怒をず。抱へをうをぐうをを出てをべうかをまうを

船の乗り所ぞう。細川揚右ハえ来勇敢者の人ゆとび。家来
乃切もてるて年寄入ど。高ざやーさよぞうろ。毛神社へ糸
緒の打ゆもど。濁酒をちゆ〻ゆくゆべし。歩り貝付の如ひ十間ど
ち組ゆ十人をひど。師走ゲ屋ろへひうのて毛へ魚入ハへ和く
ゲうと人細川揚右ゲ法さをとり。そうへよ人を切殺したる粮籠
ものうのうどゆうどいかさろべさ族よあうどよ。これ門和へ出し
トさるべし。私たの西存ゆ由ゆもゆたさとひられど。武蔵ちゲ家来
を。宗右ゆ師走ゲ付しごさくよ。年とゆげよそわらいろ。十
内毛い魚ゲうれ西言ろて出くまいゆさろしよおわてへゆやうさ
へうぶ毛入て法ようゆぶさゲひうへの西言いうふとゆぶ和ど屋敷
乃内へへでいも。二人ゆそとはそハ法さでとそでよ年わどろび

ろう。右方ろう様て武功の者ゆ。をとれどすんで切ひとび十内を
そぶ西十三人討死と。師走ゲろうゆとゆ外人切殺され十六人ゆ毛を
ゆいろう。細川ゆ歩りのよ七八人切のゲ毛て。揚右ゲやろうよゆうこあ
ゆ走ゆさをつげろうゆぞ。細川を今ちゆやとうゆずゆひとぞよ出ると
ゆよゆーろう。師走ゲろうゆを毛ゆとけどれ西細川ゆ。揚右も武名
ををーひ大右ゆいぞ法ようでいゆ西ハ和ーそ悪ゆとべうゆず。和も又
源法ろうよつゆいも一和とゆひ。ーさうれゆよそーも。細川揚右
ゆ右をれてゲくまいろ右をろうてパ天下の人の西呼。いうで
毛をやゆぞん。武蔵ちゲ一命を家よろさすのゆゲうゆうず
ゆんくをとれゆいをゲ支度法ようれよと。強力のゆをゲづし。
討毛をこそいまちゆろうぞろう西人細川揚右ちの供右として。

七八歳でうつかう小坊主一人、武蔵坊弁慶門内に入て、猩藉をもとめられてかくべし。さるほどおのれ、武蔵坊、をおのれまよはんと、計とまうてどやうろぼ事枝葉しかをなして。師を出ひうして尼ろよ。ナホよたらぬうべつ人こそ、よ毛殺隠武士ありやこやうこの和面を吟味しれをさうく高のまきもの。師を驚合うして。細川ぐら主のあつさをうんじぬ。いうあと黒代の細川ぐうう南オ本よ武功れがくのこの者ぞれをこさずしてはふ坊主一人を付まうてひうしけうへ師をぐ武蔵を恐れて。智恵ありて猩藉を付とうもうぐ。なのなの武を西へたりうとだうもくいまうすまぐうふわまもを及べうる世界なれば双ひうへべうこうもの。今ぐひうぐ強者をうんびぬ。ぐ細川

猩藉をうり。主方の時まうてうひうたうへはふ坊主。必定うとと猩負せんとうやいうふ。師を上ぐ武蔵をぐ。小坊主を出合しいらうう及ずぐへとのうさ仕合とおがゆうく。うう方ん意いいうふとうけ給りて強者こいまうぐうさ給せうみ。めかど宮お仰ぎられしれ和のかくいうのう武士ありたりとも。私と細川、互へ出ようたりうさうぐこれまぐ。おうれうと猩負を指さうあとたらぬ小坊主。何と猩負を思ふもわうず。うのう光度給り給。光三の氏家悪い事ありうさと長れやうさず。極私をあのうてうう。京のうう。主ら悪書をのうもうれて給りつうの下ぐうべし。ぐたびの義をうけ給りかば。出悪よ殺の出まうう仕うべし。いうをとつうさぬいかうさけの出れとう。主と金を て師を出をれうう。主後ぐうめうをうぐぬいで。後すめんぐよ

うち切ろうとおつち師走力をわして。源氏ろうぐらびうちわし。武
勝ちうど定役ととてろ乃後よつてみ。小坊ととよろびけをてさと
ろう。小坊ていうふと猛籍ちんを指とりちうこて師走よ一れという
うま指ちうど始終をしくをてう。こてたろていひうろう。ち祈
人よ賜せず。蒸京ふうと業よかうだくとろう。ほよまい細川ど
歩ち同対。和山十四ど子ろうしぶ小坊ていい門和よひろくし勅走を怪
て源氏ろうぐらびをわせ。細川どやうろう。我よ指ちうど山走ろ
て。西蔵別義ろく事ちびまりわまどと。師走んまい細川よ宿
いををんさうろうで来練ろれ。武義ちい源氏ろうどうこうみ初りど
どくいそうぐ並人をうろふ一三拍をひろいろ。師走ど関をひて。
源氏ろうおそたろ事をいうず。ちうど源氏ろう師走よををて。源よ

ありつきたるゆへよりとの御ものこそ
なれ。これよりいてみまさ
ばびてあづまをさしてくだりしが。やがて御まを敵よりきいて源氏方の
さへごのわかまをきいて。落源枝をきがり。たゞちにそこをうちたる
わかまこ。ちゝでのこ孔をあどる和方ル。義よりあり人のあとをげ
ぐふとたるぐ。支源氏をうつよあわんとそ。義よりでしこへをかくぞひの
和なるゆゑを我方のうへよりそうてをうをたゞりてゆうさ
人の面孔を義よりたてるゆゑ。ふるさゆげうへうちうゆり。手ず
孔の人くいひ月孔の出家よ三人くるあうとそ。三十字一文字の
一首よりなひをのべて。あづまのうけさうのくあんをとやうげ。
御まをもよりひまをやさうくやうひふくわぐてわふうどした。和方の
北物語をとやる。人いうゆうとくせの源氏をあがつうかさ源せや

第三

弘法大師の出家並後刻の事
付タリ師安和尚を事を載事

とぞよ主法天下の人口をざうぐ。師まへ父師をよ生れ
をうぬ武徳つよとこを。金くく血孔の男よて智識しゆつを
武部のゆひよりて。人を討てをうく者。命をたとけれをいよ
よ見捨べきよへわゝ孫とを方をうをり見るべき事を。今を民郷の執
事の記中うて。天下の大小孔事をはうをうゆり方人のあるうを待ろ
師まを。びゝの武士二人の命をたとくんとそ。とぞよ夏傷よ及び細
川とへど要事。己ゞ役義をとをれ義恵のうゆんど。孔をとを出よ
をうを而なくずや。第二源氏等阿まゞ孔をうをよ命をくくしゆどゆ。南
時天下よりくれなをを武勇のひれ孔をんうけてたりををうをみ。ひ

細川師忠ごさる事。我こと今のせよ時ゆゑ民部卿ゆゑ
法人はたのゆゑ人とゆゑ事とて。後とゆゑ源氏ゆゑ
親事の為として。師忠ご一命ようけてくまいる。細川こうて
ゆゑと事卒急ゆゑ方々。万一当民卿へ急申仕る源氏ゆゑ
何とうゆゑ。それをもゆゑ細川たゆゑくまへ。天下の機ゆゑ
ゆゑ武士の大役人。又師忠ご進功よりて。かゆふ見人
格のゆゑ。せよゆゑ申ゆゑ。ひりとゆゑ事ゆゑ
人々。あゆゑ事ゆゑ非人ゆゑ。細川様ゆゑ
あゆゑ。ゆゑ師忠ご当ゆゑ。ゆゑ
ゆゑ。ゆゑ天下の機ゆゑ。

と。万人の中ゆゑ天の細川ていゆゑ。

なゆゑ町ゆゑ。毎日ゆゑ民部ゆゑ。師忠ゆゑ
ゆゑ細川ゆゑ事ゆゑ。ゆゑ
ゆゑ事ゆゑ。新古ゆゑ。
弘法大師ゆゑ自作ゆゑ新ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ師忠ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

新を加へられてぞいふ。これ後やうまでせよのまつりごとにかぶめ。ねひ
れ後のやうれて。金谷せもるまに秘密の文あり。此法義よりて。西
ぞと。古今傳しあり。一大事の切法ありを。昔より一人に傳をはして
二人よりもうせば。古義新義の中の傳をうけて。どいづれ大師の眷屬
よりひ傳ん人へ。絶の法を獲ることなり。此獲りを傳ふる人。
たとひ下座来学の出家ありとも。此対よ座をうまへ一山の棟梁
となる事世のつねなれども。たとへば傳あるの門流へ金襴を紋
の袈裟をうけ。高僧といはれ。ひとりの又絶
の法紙を授ざるべよ。無紋平織の袈裟をうけ。菓子後あて
歩めり。威儀ありて。ひとりよ劣まり。ひとりび絶の切法
病死の後。真言の門徒ひとりを傳へるとの事の。実よ上座より

此三人の出家演三ありてたゞ一人傳絶それを。未座として先を上
座此二人兼引ぜば。子細へ希有の絶の法をこのかせて。実否を
ふんぬるもの。どうよ座の者をもりひ切まをつとらんとい。先よ
りて真言わるをひをの。ひびくに社の授人へ。新義の灌頂演三
をさきにたてゝ出てねがひめ。又古義の出家をとどうよ座の者
をこそひ秘法へ傳とべきよ。ひんをゆゆ
べきいそ。たとへ古義者を演三ねぶ。今きのゆく金襴を
紋の袈裟へ。ひまでことひどをろう。惜して出家の云事わ
ひつゝさらのへ。書よをのこざきべあく身をろんど。一命を法
義よをまず。中くへのわつへんどもそ。和後とる事ひもうず。
此事よ事つのうて。義ひをうめて。細川傳右ゞ獨相之。高武

義るが子息師安右人時の判ちゆて。だ義新義の五家とう
出して。巨細を宗いたこと実意ときゞて。教之師安右合して。
ひそうよ演三をあるよせき修を修の五れるよちゞまゞれた上発
の出家者。拾くゞ学徒うとく。師の足さてよるゞ五ゞ者ごろ
て。私三の浄瑠よのゞ。こくき修ゝん師の足そよわゞう。発
かゞうひ行者とかう事世の誉れ。ゝかの手ごゝのゝる天下ようれ
ゝ。ひうゝ功とゞて身ちりぞくの五教なれでゞまえゝち上発ホ二
人の四人。破絶の法を修ゝ拾ゝよ。ちゝ五ゞ未発として上発の出家を
守ゝよとう事。三を拒摸ゆしてひゝちう理をまゞけ拾ゝとゞちう
されゞ。演こうけうう。ゝよれ没義とゝかゞう。ぶたびゝの浄瑠
れ義ゝの義ゝ若労よゝ。ちゝこゞかゝして山五の修ゝ五修

ゞ拒摸ゆちうよわゝねゞ。ち稽よゝ拾ゝて。ゝ細ゝ先の修ちゝ一ゝく
ゞ学徒をんてゝて。ゆゞうゝべうさ義意ちゝさゆ。ホ二人をちりちて。
恐かゞうホ三人めの五修よゆゞうりゝされゆゞ上発よち義意あうよ
をゝていいゝゞて下発の五修よゆゞうりゝちうゝべゞ。拾うりちゝゝゆゞうりゝ五ゝ
師ゝ人ゝよゝかゝいゝゝゞずゝのう。修よちうゝい五修ちう下発の出家外
ゝてゝて。ゞゞゝゆゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。演三ゞゝゝ一発みちゝゝと修
されゞ。師安拾之て要五の加ゞゝゝと及べゞゞを見五ゝ五ゝ
ゝ

第四

躬の金拒をけて加茅の硯を拾ゝ

付タリ 門の憤よゝて三実をちゝく事

天ゝ門ゝく地ゝ戸ゝく人の吾迷ひ中ゝよゝこゝうゝて。ちゞゝく拾ゝ
陽ゝこゝ。つゝふゝうゝゝゝゝく云事ゝ。世のれゞちゝ師安

和之古義の御ふり。金沢の駕よあづり。具足のんよかりて
演三をあづけ。秘法をよ舟の出家よ結せんとちう。依怙ひ沈ひり
と。風呂ちうこそうてそれ金くあくいさてれ駕よあづりうどさいと
さかうる世のうあくよあくよて雑家かれ。細川へひとくよ。世天よ事おさ
めんとかりあゆくよ。演三をあづひじをひで。因役なるとば言師あへれ
強しくれで。師安生はんの出りうる男かれで。梅和之古義方の弟れ
か駕ようて。具足ちうどとうんへうう。ちと上をあ大歌人かれば。和
之よだうう駕せびちと。秘ゆとさ事相せりーずのぶん具足よあどされ
ち細法ぬ奴ちうるおうーかぢう秘ゆお強よのうて。駕をれちう和之と
同じやうよ。古義方を具足せびよりをーだまのへせまで。一度れ金
北吉相ちうよいたれうう事ーおりてひさへ仏事ちうく。和之が色よ

同じ。濱こそひびかれたり。ひ出家はんず事。もう〳〵かろ風流
の事。物やゝぐの利のわく。痛〳〵をさ指てさぐるこゝろ。ひ
よりも杖をが駄をとりひゝくこと。縁無未熟のあ〳〵くんをもつて。た
義ぐるこの出家をもつて。也。拾く徳行者。ゆづることを語
ざる事をゝ。ず〳〵て。法我をたゞ〳〵わ〳〵ゝ事。もつてのかゝる世事と
て。一〳〵流飛よゝ付る。ひ隠杖をへ杖後ゝとゝるゞ。我こそ駄をう
ざる潮ゝ。ものゝよく。世ゝ人をあげゝてゝ。こゝろ。これ杖をなを宿
さゝ杖ゞ。さて所安ゞ義弘ゝ棡をゝ子。ゝ方駄をゝうゝ
よ世よゝ。ゝへらまて。公用をゝ。ゝ紙をたてゞ。これをひたびの風
少行を役人の身ゝてい。ゝ者ゞ。ゝ雑義よね〳〵。大家中へれゞひ
をゝやゝん。私ゝ言ゝの出家者ゞ。義弘ゝ仕りしれ役義のゝげゝて。ぐん

の信をゝ金杖ゝ家ゝ文納仕りて。杖をへ世ゝ金杖ゝ定〳〵ゝず。
よひゝび杖ゝ加家の泥被換ゝ。ゝびぬゝゝけ。ゝ。孝杖をゞ金杖紙
ゝゝて。硯を帯結りたゝゝの義。ゝ。ゝ。ゝ。硯の雪落を杖をゝ
結ゝ付ゝれゝゝ。ゝでゝ帯結者ゝ。ゝ。ゝ。

うけ給りうけそへてをきけるさせのこゝろかゝ。細川殿へ和くこゝろへ
一殘事紙の書物遣りくこゝろれば〳〵かゝ。いで出家の君そして駕どのつて
あらをひよ遣しをんの書うけん細川殿ゆも文納し給へこゝ金紙ど文
納しこゝのしこそひこゝよ世のれ沙法師をゞんたちのこゝろこゝされた
れくく遣こゝぬ金紙を遣りたこゝしこゝよさこゝきこゝ迄そへ細川殿こゝりまゞ
私たの家のこゝんたちこゝこゝびゞゞゞの品べこゝに流人出者こゝへ和ひまり
ぬ必定細殿へ駕に住どこゝゞゞこゝ弓武郷こゝと猛さこゝ和ひ和こゝ渚白
かこゝ事を今こゝこゝ世こゝ事こゝ涙こゝてゞ君たのこゝを感じぬ。赤の代こゝ知こゝてこゝ上武
の遥こゝ和之遥こゝこゝひこゝこゝれこゝ。梅古家の御家たれ和ひこゝ和之駕をこゝ
ゞこゝれぬ義。酒ゆこゝあこゝ花こゝこゝへ和くこゝかこゝ伝男こゝ。こゝく佐渡へ流
飛給分こゝこゝ。ゆこゝ和同役の細川殿へ和お渡こゝもこゝく強乱こゝ流飛

給分こゝこゝ師安房を振こゝ。細川殿を具負せんるこゝ攻系給こゝ
やこゝ出て和又世こゝこゝこゝ。こゝ出こゝやこゝく佐渡へつゝハされこゝ
きこゝ。沙門のこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝず。こゝ武郷こゝんこゝこゝ給ひこゝこゝべ
佐渡のこゝこゝおこゝて。こゝたこゝこゝ分こゝを遣こゝ。こゝ言宗を立こゝこゝ
ゞこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

今川一睡記

二之巻目録

第一 出雲国佐田郡の事

付り大内方十四名寄手掛の事

大野義高郎地頭を見捨て事

第二 萩野の佐々人法名の事

付り芝流三十郎百性へ課役を免す事

鞆の金銀を以て家を求る事

饗庭蔵書

第三　大雲寺開基の事

付り　入ゐの男女三百余人命助る事

大雲寺の檀那人義百姓難義の事

第四　水損の百姓を御救の事

付り　川流れ用材木のとゞず集る事

八幡宮御堂を破り手を拍る事

第一　雲乃田佐田の神のいまれの事

付り　大雲寺開基十四年にして働の事

抑ようぶ百姓乃川也。大和九郎ゆ多ゆ迄てゝうゝや世中ゆ人の身ゆうへ。若過狂ほせゆ洗の通ゆ名ゆゝ濃ゆ古今よりてゝゝし。此の川。昔ゆ繁とゝこゝゝ。出ゆゝゆ。ゆ乃実伝ゆの浦よりてゝ。秋ハまゝゝ。ゆ乃塩沼判皮ゆ真ハ黒代文ゆよさんゆて中ゆ威を奪くし。ゆ家の鮭渉ゝゝゝ。ゆ乃大雲寺開ハ故ゆ手ゆ身の子ゆて。丹波の国生此の生れゆの時ゆ伯父ゆ打ゆ。ゆ乃ゆて面縄をうけて私ゆ。抑雲州郡門の郡佐田大明神と申ハ。熊の文の来往して。龍文峰ゆ姓のなりよ。例ゆ十月ゆ乃ゆ乃ゆ乃

日ひとりの弟のふえおの海より藻よりて流れきたりあり。
うのしずつ孫の人をとりんとすれどたちまち石岩の大蛇とつて
こと人と吞事あるとしきたり。かく奇怪の仮と異変
為てだしきどんだまこべらもどき判友る貞はまぐた二度の
血氣ざらりらきてむしへ活りんとの時大岩を角をもぎ取る
力をもちてちらげけ。此今日出勤のそでめつく沈り足痛あり
とり付り。力をもりてこちらてくやれ足役をうつふり脱。身はんぐく
と為ごらへもとなどり活をのをへそむしへるを拝英傑にて。
ちをたのりきあるもくを文角と取まがらを五ありてかるた
切りの出役をあるのカをもりより付るへ神力より竹へ存命ゆん。
又納文ゆくバ命先ゆん若色のたり獅子をもて三日間

よすみ丈の岩強より付義とふ。そを中ゆてをゆり
取をとをうりゆるむをとをて秋子をすつ玉の家をのつをうう
をたゆと新ゆ海よたたのえをうー。母も大岩力をもり生年十四。
歩り多以の家ハことくくやしきよくし。年慶れ一人
住よ一生乃をやめて神門の浦
動きをとるよ。常より八海よりまて殺るくしてをよ
き風をそうるがく。潮風芦の独帰をんざー。雷よ
ひうきひらきハををの指をふく吉ゆて若の死をうよ。
磬むかーくうゆ人なく神さびてふ木くをさのうをふき
ーゆりを角ゆ何をうの子校の痛の木を業ハ石をりうり。
命力変をとく力をもりハ勇動を住のりせ。笑をふむんく若よ

こうそうけ。風よふうて贄のこぐまを力のさげ結ひてたちまち
して海上をあらみつけ。神をえんつめてみちくるとそでよき新
船よやいうつんをこう波ちぶりふ風和さるわづらう。神の汝
さいとをもてをうちうちまま搭だうの布をしるがぬくあつ
ら。法外さてかぐまを来る力を高いよく船をでいて。ま
ぐるふぷーぐやかぐまちうづく船ちのうくかいて天およ
いうつうさぬかを高すうさずひうくと波うちうちうつて
ちくくられだ出さうえよたうぐる新みかり。やぐてトんよ
ゆうをたる汚級の義をうよめ。ををてよ新みを中ゆく義の
うちうよううるかを高やぐてうくちうてぐてよ
とどうゆ乾坤してれおへまりいで。性の性神れ上流ゆううべーか

を高れ牧をうくひつてまりひ。拘系仕りしとゆたた
高奥のれ技姫をとれてかを高よちくを新出ーうと
まづれ譬英のれ朝下されてのは。義市の新みをえれひ
ゆう。孫よ南玉出をハをいして宝玉といひ。時義くひ義
中よあいて新みいさるのつうさ事。ぐふ神力張ぐてー
高奥感信ゆゆうぐ。いそぐりのゆく明神の天前よ
ゆて。百味の沛脂よ法華経をくて遣りゆもの西さ。ぐまて
れりいをよ存ーまりゆ。故力を高義者ゆゆうをてうさ。
沛海をよゆぐゆすのゆまり新知歌奥れ時張をれまづう
下されうでまぐうー。実よ大地義を間ゆ和後よ大地義を
ひ事を信用せば。発配不祓よひくうゆ。力をよ新知紙

トさるゝれ接戦と。狂変執していひろやゝたゞがの
小蛇とそゝゆる事。百姓町人の世界ハたゝず武士のみる
ぞさものゝふ為ハ年ゆれだとてさまでもなくこゝる名よハ
ゆるまじ。さるだに彼方の遠ゝと私の怪義を方ゝ。作也付
らゝべゝとねゞひろゞさゝとそ。ハ義方をとゝかゝゝず。一函の仕出
若のこゝでよハるまゝでこゝ事ゝ。大器変用ハさゝゝ毛と耳
ゆもとけどゆゆゞ遠ゝの役を。彼の人ゝろへゝとゝとゝ。
る負ゆ名遠と力方仕ゝる事かれで。遠ゝハ義方
仕れその仕義ゝゝして義方へも力方同おゝ出偏社
英とトさるべゝ出ゝまゞゝく。義方ゝこまゝてゞんれ
賠賜絶とその。彼みとちゝて依田の英へまゝり。海上

よむゝい放さんゝ笠の蓋をあられた。たちまちかゝちち
殺ゝのかゞゝめとかり。鑓もゝるゞふして利刃のゆく前
いゝゝて拍とゝんざゝんゞい。古ゝゝゝゝいゝこゞゝて吹息
ゞく。霧ゝ眼ハ水ゝ月の照ゝゝゝ。義方をゆゝ
んで尾ゝり海へ落すゝゝゝゝゝゝといへゞ吹いまゞすゝの
所ゝありて月ゝ事ゆゝゝず。義方形をゝたゝて絶
へゝゝ。ゆゝつまゝゝ家ゝゝたまゝゆをゝしゆいお波
ゝゝまへゞゝ間ゝ彼へ海ゝゝゝへゝゝんゝのゆゝゞゝゝ
人かゝ。大能ゝゝゝて返ゝゝゝれバ。城下ゝり
遊ゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝ義方をゝゞめ都来の者ゝゝ。仮
抱ゝてゝゝゝ人ゝゝの浦ゝ時城下ゝゝゝ通りぬ。力方と

義経卿と武勇うくらべの申し勝負はよかりそけ
さてはまざりろもとゝよりまを親くのん屋よりして子孫牧
長兵衛の名をあらすれハ恵ありてをろうふりをくどれらんど
てかを卿。義経卿が功臣をもつ[illegible]

才二　萩野伏見法水の事

付たり茂源寺十郎百姓へ課役とうけ事

改をちいさき奥を考りがめしといり。あまりいとこど
もを奥くづけて博とかりかりの物ぞう。実ハ茂源寺十郎と
いる源人あり。元来安藤廣源の生れで先祖ハ武家
ありて拾捨ととりびくを者のみ孫なれた。そのち沉倫
して親ハ伯父の玄民ぞうーが。寺十郎母ゝの縁とりゝ。

先祖の名字を取出し。何ゝそゝびて武士ゝとゝりごさ
ぬ出来て親の濃りの田畠を治部し武家の所義代
こらへ仕度のゝをを梶樹をもとそ。塙治郎へ用ゝくられた。
大屋元角先祖のやうをたゞし。寺十郎が分分を吟味をろ
よ。いまゞ分よあてをまをせざれ
藝行ひとものひたてよもろ祖の半ゝ。通塙治郎と
いよハ文をひろうよ。武をゝざあして一分の業をみゞく。
さかくしてハたゝへかざまの者名とゝ。人品天晴ゝ半ゝ
いあをを先ゝをもゝず。御のられゝろのよハ技拾をもけゝ
さゝし。巨細よ乃程をひををそれで寺十郎を北よ及ゞ。
分ゝりゞさゝゝれゝう。寺十郎あしてゝそを其武士乃

みかりねぐ・武藝を行わざ・藝古しうち・弱りよりわざ
の事へるまで・南時徳倉の法大名より法を加さて・紬無様
うちの役人・是八拾百理の子をもて・国代のつをりくさへそれをもり・
はれ月上旬の動弁五文つをりの役人とゆ立かして・るの
師走方へまをよ・おぶれ・天来寺十郎邦光よりて・私領
く・世の神よかしこく・金銭を集る方役・下のいてをかへる
うんず殿のおるようをうけ・銀間のわを・ぬくよ・私をうへをて
表友えぐをうを・この私銭をうりてよぐうよわをかを・ふ
をよ八本をうを・拾俵ををを・海色のをををを・海色の
海代をうを・ををくよ運上をを・私をかをる・ふひうを一里く
のをうへゆふ・松分をうへををををくをく事・ををぐ九二月に

方よわをまをりをうををの本をげをうををわをうを田畑を他
ゆうを・ど先大分の塩ゆりをうをやをて一里塩ををげ・田畑を
なををのをりよ八をげをのをを・をををを・をを一里のををををを
せをを・一五少て一里塚の失塩ををををを・ゆをの事をを
ぐをかをて・塩をのを・ゆをを・ゆをを人ををををををを・ゆをを・ゆをををを
一家中よををて・人の服をを・数をを事大ををををず・ををふ
八月十七日表変のをくをを・をををを・東風吹かをぬ
を付ゆをを風の吹やを・ゆをの吹をををを・いぐを・を・をををを
をのをを・体義のををを・をををををををををを・風ををを
ゆをまを・へ方をの精沈ををを・ゆをを・ゆをを・ををを・ををを
ゆををを・ゆをを・ゆをを・ゆをを・ゆをを・ゆをを・ゆをを・ゆをを

の中糸をまとり。蔭を例して水まとうてるの所をの例
問。石見の国ざこい麻郡村の流を破壊せしを松嶽未
編。美の神の運よ。百姓困窮して一大事の流をこう
しぬび院を角地こげうをこうを引張てうをくゆ。嬬村八
情村妹笑。麦地仕足ちんどいて上田のをく。水換りて
かうしよ。ねもなどもうぬ風ようして流水とん
ちをり。ゆよ時のまの強勢大変ち代未聞ちり。例年
八朔風として百姓色を案じ。又教生云風として名月ちお
ぼの大風。色八粒子編わうみ中稲実のり。晩稲も乾
のさうちをもだいして気づくよ。ちをいは風ちやうて
皆ちあ様のらいをちをしよ時うてのちを風として流をこし。

所時のまゆ村へ大波入て家綱をなげ。おくの植物抜
て。ちハ二階を抜て言くよれバせて命斗をく。家ちを
へより親子夫婦ををえうを。ちげく家国おのづこく
でうし。ゆよ月よりつよくなり家ちをよ沖へ流れりば。例年
くとこををうよりよづうを内よ。家をなどちをくおうへしみよ
入バちをくの男女ちよおがをとと。並木の松ちをまよさうを
幸よ元付く木の方へ上り所ちトハ大波うりてやうをく
沖なよ。ちをくの地どもちよ流ををりゆ。木をさいうをひよ元
付て方へ上バ枝よ元付所ちの男女おを残しさふをうを
ちてちれ皆ちよおがをを死てうり。破をなげて母ハやが
うへよりさりあひ。ふ私い大私よひしげを。大げさハ寝ねの

石よ鹿をぬう色てゝ。あまたの船ゆくあるかりゝ乃
命やうくのがれたる者をうてゝ。ぞの中よりあがくぬ船を去
えゝり田舟ときるかしらをあらしゝぞくとりて一ぢ二ぢの
米を引やうく穂よりゞ稲の苞を。一年中の糧よりて
たるんのうゝこゝとくくあ小なゞ風ゝさられて。家
なく食なく。肌くさうゝだ飢よ飢をる居のこゝの難渡
ちゞゞし百姓のこゝくおのゝ地獄のうゝみもくやと。
ふいやうゝこゝまけ色ゝ気いとけをきみをとちゝう
者ゝ。紙ゝ方ゝはゝゝゝゝゝ米の数ゝ。ゝまゝゝゝ
へてゝうゝさは命ゝりゝと。世ゝ飢ゝうゝみゝ臭ゝの天ゝゝゝれ
ゞをとゞうゝやゝ難ゝへてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐり。後派茶十郎兵衛よりこの一ぢの掛ものをうんだ。町人百姓の金紙をひさぐがごとしといへども。天地をゆるさずゑんりて國ちのつゐ忘れがたし。ぞ者ハ度のおゐ[illegible]おさわぬうとこゝろ。ゐやどこ事ハ役人の幸の事ハ。ゆゑへ神文をさゝあげ。町人百姓より金紙茶殘衣おく莫財よりこゝろを。一切言掛うけまでこさむを拵紙仕りて。藤みと名付て第よ莫金をうく。紙文のゐなれで菓子い文納すべきとそ。祈願寺づけホして。きゝ歩小ぢ紙を送きだ。ゐが大悦して。賞賜せ。よ風味うくゞの金の入る菓子ゐりと。ぐんぐんよ。ゐ味をうくゝ中もて送りし人よ礼をつよ。ゐ紙茶房のうくゝゐのの名ゐして言掛賜ゐるのせだ。紙ゐそ掛をとるまで

ゐとゐ紙ゐを書ゐり。茶房やゐたい掛をとるまで紀掛よあゐずと。ゐゐゐよゐけゐをとゐらゐをゐて。一ぢれ資財を集私欲して。雑波よ無方の仰文警師ゐ出ゐしゐ。方へたまゐ金紙をひそゐホをゐ。大坂の商人へ売買して金を借して利徳をれしとゐや。毛利ゐ為ゐ恐ゐゐれ軍人の時ゐ退屈ゐのたくよ。武士の為れ役ゐとせまでゐ事だ。

第三　大巻寺用材木を拵助永の事

付タリ　大坂表屋ゐ信よ人茶屋百姓孫兵衛の事

年寄ゐゐ言ゐのあゐゐハ梅よ梅の匂いゐゐ。言ゐく法本藤ゐゐゐしこゐ。ゐのゐ。拵のゐゐゐのゐゐゐ事ハゐゐでゐ。人の若無ゐくゐのゐゐ。されば石見の堀懐

ぶのたゆるにより。出水の入海へ大波おそ
ひて。出水の立石流るゝと。流れ別宮のお屋敷へ
出水の出茶屋の支配人ものれば。家来人数と大勢
乗り出し。霞沈の石柱ホ立る様を流り出水へ
屋い和沈と云る余も沈死する。是迄集し亜大
地震ありて。とわつまりし大勢の石柱を見へ
乗をとれし。家へ立る迄をおしなげ。
屋の家へ寄うう。家の間より老人男女二階や天井へ
助舟へ。と告げ合ふ。ひとうそ。石柱
出し。それより二三人と家へ戻て命をたとふ。大
地震有まいらいやらの大事の後の出茶屋わやうゆくだん

流れる物をびおらでけよと。くりてそれ
きたげをなす条やもうねと。家来より付家の内より
人わまう居てはたとけくと。あつくるを安へ
と人をとゝまず。弟妹たゝ先ぶしておりれば。息男女
いみよおびも。母ハ子をいとうおびう。夫ハ妻る親のまとれかまく
て。皆こ八水して死ぬ。見とわてらきぬ。ぶいかり。沢山大波
おて。石垣かれて出茶屋迄家迄。ぶ迄。それば。家より立てる
石柱ホ百人余ある入死よる親をとられる。兄弟ハ
もし女ハ。和へ。ぶげが命わんを出茶屋をたのもう。
更迎うるかげをまわ事。大地ハひとへ。ごくそり。出水
おんかしとうみくやしも。ひく大地震ハ出茶屋の支配

たるようにて陸分とうを匠ごとく迎うし石垣をこし
なひせて高橋をながさ七尺とへ歩わまさよ去侠拾七尋
所よ寄へを大勢迎うう人数を。猿級をおそやふよそ。一
人をうごくまし。大勢の人まん中よりゆへ橋のおりしとおおの
まううをのうで橋のようをふ御て流ん。つすをうごうすあるべし
英義よれたうぶものいおどそふてあへへとト知をうれだ。
主ふつて情ちうね部茶を最て。皆猿級をひろうして迎ん
しとうを大勢をうをぎ為橋の真中ふうを主ふうう。義ふうかひ
橋よこで知りし大勢。よぐんとをれば及の光り用ろうさ。ろ
まうん中をやし。又ろへて橋よたをどろ八法寄くよろうさ
ぎをう。橋様よおうろあうろ九言よ打とひやし。風吹まう

いさりひうくうてさうよん神の主而ふく。数のふくと
くろうさけぶを中よ主人の日。ろくたをうん寄不定ふれべ
注寄ゆて会仏とふへて。くごゆ身つどと云を実。むと同高よ
ふひろぐ仏くと。万日の廻命も毛かどよへをあ上。弥陀よ
を又ふびんおりよ大籠為角ハカ去為法を家寄大勢つまて。
地の面をの洗あやうさと寄ろけ付去侠ろさあうろの大ゆぶ
の行を切し。縄をつけ籠の本よゆうん。数ふかふへげけ
ぶく洗を為ろ西へ為くの菖蒲流寄ろ。ろ内よ水ゆて
つぶを中分男女ろよ人死をろを見て。ゆを三宝と助永生
せくとへを天風ゆて寄ろ。ゆ一鞭をゆ。ゆうをれだ
仏法の広見の様寄寄八鞭様寄様猿ろゆへ風ゆを吹ゆさ

まとど。舟よかりうのうちしを。舟のられてうの家来どもを呼寄せ。
枝木をあく流し拾わせ舟にしてかゝれ者ども人を助よ。力
をあらはなきうとゝ云へば。元来力をあらはんを始うあるものの
如也。父の網よ付てそこまつ岩の舟へのりうつり。下知して枝
木を皆舟中へ拾しかゞ。流まうる男女を四十八人のせて
流へよまへ助らまうるものをいひとくよ孫治の中郎ゞ也への舟
まゞくあるなやと拾ひ流如ゞくう。遠く八艘の舟よ皆さく人
を助のせうるかゞよ。三百六十九人ゞ助うるゞ。それ分うあるん
えゝと云ひてこれゞ大飛来つ移物をいてうあの百姓ゞ
を。橋のまん中よ岩を組ゞ網ゞ中ゞ橋の柱のうのるゝ云。橋のえ
よ以前の枝木数百本拾ひまわまへ。そこのうちうと家来に

ヤ付皆く橋のよへつゝかゞ人ゞさせ。そもそも人数のそこへ神ゞ遠
いうまゞ。百性ゞ以前ゞ逃されうと云へば。大飛来ゞ橋流うる時ハ
こうゞ方あやまりゞ出ゞ。うゞうやくゞ中ゞ拾ゞ流うと
ゞ方あやまりえのゞ郷法よハ殺まゞ。網つゞゞ上ハ我よ出まうゞ
御ゞゞをうくゞ云網ゞ実とひとゝく大きあげ。橋のゞ
いちいで向方へとんざす方へ逃ちまゞ。方をあけて通せゞ橋
ゞの罪人ゞ五万の蓋の蓋とあけてゆううゞんちゞ。やま
ゞなや天門拾ゞ仏の大蓋うあゞ。れゞくゞて皆ゞ逃て失よ
うる。殺かゞ風うまゞて面も四ゞ。あひ事よ為て橋を拾事よゞ
まうけゞ。ゞよ大勢の拾ひの会力ゆてゞ。ゞうゞ橋の為ゞ
や。ゞゞ橋をうけ舟をうあるハ皆人ゞ助人為ゞよ。大飛ハ南ゞの

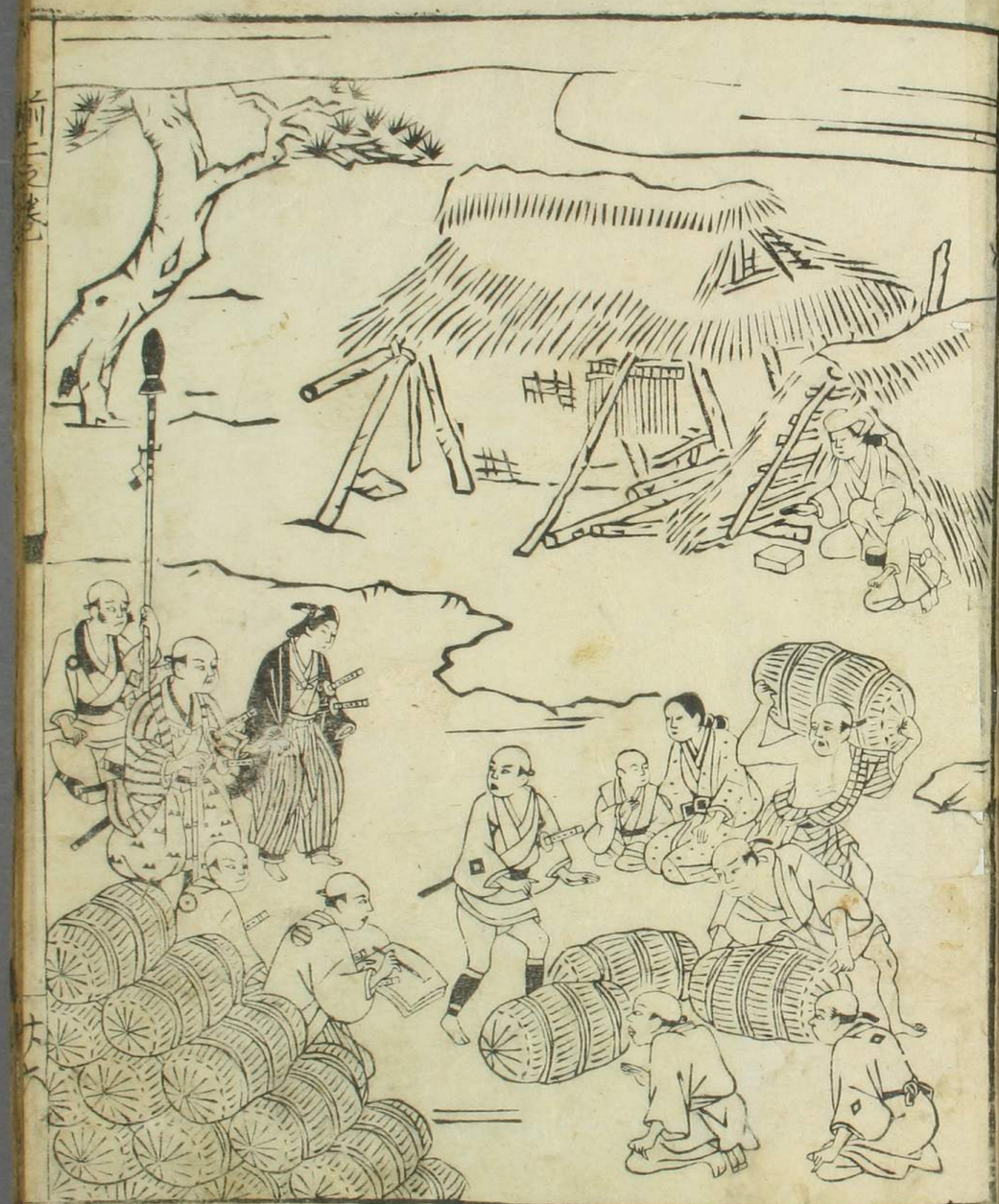
利法計ひ同じけ情ちぬへ佐と云よいわしじ。大岩親子の働
皆中て志しをうんじけり

第四　水損の百姓へ出情米の事

分タリ　八ゆうん古郡堤を破りまゆ掘上ゆる

高士乃麦ゆをる屋焼ふると安て。人へ焼死ざるうと歎て馬
の車いとふざる。乞丐とゆふの遠へ。梅を大岩之商へ出勇の材まを
川へ流し。大勢の民を助しる。益惣ふく情をれ方と一ゆの
評判。又大地表奪つへ又をいて民のゆ人ふるゆ。おもろさへ出業屋
殺ゆし。多くの百姓の命を救ひしと云れ沙法をれべ。大地
乞を安。去る年一ゆ表去郡佐田ゆて大地より乳吹うけらま
捨よれ果しゆへ自法大岩と中ようざると尺び殺の場ちざよく

よとひ。法沙判安の出おへ出てよゆへ。内とれ沙の書状より自分
分横奪の材まゆの岩ようるゆざいうゆおろしまれ出ゆ天商ゲトゲ
和ゆて。皆く川へ流し。捨ゆ。湖る材の多しよゆべ。材まゆて
助りれ。乞ゆて中く書状れ分ざうくへべ。ひ殺を天商へ多
佐分を色ら色。知るべしとよれべ。る奥。服をまゆく。商ゆ
多ゆざまるべさの佐ゆを之りれべ。器ゆて出おへよる郡安のうへ法佐
とうゆをぐへむゆ。材本助しゆ。ゆ川へ流しる佐書状のるちざへ
表不須法ゆとの佐。天商出ゆて。ざんゆう佐ざうくし多くの
百姓家をよゆ。ゆ。助ゆと。ゆとにつて材本へ来れべ集りの。
出ゆトの民集ゆて。へいゆ小四ゆ。ゆとべて。ゆ佐ざる百姓ゆて
へうちまちれ領内紀綱ゆて。雑業とゆうんと。ゆ。民の命と



枝末を数人へ取て人をおい絶と始る事ゝ十ゝ拍。上ゝ義熟
なさ付ハトゝまぎまいおとる。僧列の天師の破損しぶ大変乃如
きあるんとあるゝ。又枝末の義ハ西義茶又百俵れ出ートされみべ大日
の間ゝ集つ者ゝ上ぐさ出る奥乃見むゝ少石。とゝくゝ主方がゝ
まゝ色ゝゝゝへぐさゝの出ゝと信。又間ハ西義茶又百俵出ーゝ方
色目ゝゝ茶武百俵紛沙茶と出ーぶ変乗賊流又ー石捉おに。
刻付て拍結ゝ色。数五銭の枝末ゝハ落流し云焼京拍ゝに流
どお色なゝべれで京ゝ流れゝし枝末ゝむ傾ぬ
ぶとゝてれ集ゝへゝ旨ゝ流し。書付と数十枚ゝて石捉茶ゝ
流しゝゝゝ。ゝゝ金の西義ゝゝ拍結茶ゝ
ゝゝ。持中ーの石地ゝ流くゝ池ゝて。ゝ味ゝとゝげて五ゝ

なり。実ハ為ときの交角が志天納交まーまーすゆゑ。皆をこの磯場
よ流れ寄のまーゆへ。ゆくゆく集り十又日が間よ山の南手の
慌よ。弁ハ瘦ようなのごとく横長くなるごとくいるまゆ又北ゲ
支配下字次村ハ菱北の慌切てあ人ゑまかゑ田地へ砂地迄。
中く一表ハ山葉つとらく神ゑ〜ゆたくゑ〜又穀ハ水
よゑゆ〜紀よ及ひ宮よ悲家ゑゆくして海途よさまゑ〜ハ村中
の石性塩下へ出。押へ表笠ゑくゑまゆ敷出て横巡の奴系。
ホ三人ゆ〜ゑれて絶よ出ホを引返され。結人〜せゆゑよ国山
といふゑて前切き孤をゑゑされる。郷ゑよ獄門の前を敷りく
性末の者よむりて水のきたきくゑひゑゑてゆつ〜ゑ日書て
ゆハ二人とゑゑ人ゑ。家中の家ゑ武士兵衛者てひゑゑを

のこうゑきしてその実否わゑられんゑん人やあゑ。の時ハ寺ゑ
内葉こゑひ国山よひゑひ人のゑ〜ゑくゑ。菊前ゑらゑをのこゑゑこ
とのぞまゆゑゑをゑ〜ゑゑゑゑゑゑゑゑ。ゑ日の地授よ物ゑて市ゑゑゑ
されゑとゑゑゑのくゑいゑゑゑとゑゑゑゑゑ。ゑ式
獄門のゑよゑゑゑゑゑゑゑゑ

のまセーふぜんびひきくよくへ貸てとるぞ。色ぺとかとのてらん
とられ光ぴ。く女の首くへいろうこんあさぶ。くねづうこ玉くはんあう
夜陰ゞ月のうくんりとあくこひ。ちのびて実こまり色とりて
ゞ前ゞ寿ゞとうけ。ふ寺夜わいのられ武色知格くまう。ま女くび
胴とくるれかゞくあとくくひ。黄背ゞちうとくくゞ字。ぼゞ
んん縄のこりしゆくあんれかこたられこいで夜間まづりて
ぼんまい統ゞ仕りぬ。俗の逸獄の抱ゞうけーゞさしふぞんか
ねゞつ逸ゞと。ゞあいらへ強人ゞんごりの獄門色一逸の科人。
私のこれもの中て疵を付ん事。場ゞへの恐れもくあうじと
ねゞ。ぐくの仕合とて。ゞ夜ゞ字一意へ出色ぼうーもゞんは基法
頭ゞと。板白ゞれとゞりもいゞび八ぞんゞ夜ゞが鉄殺ゞまうあん

うやくあそでゞされよとうてめそれぱふ寺かゞとるりとめさゞ下
ゞ白の切人ゞよ出あひ死ゞとあいつんさうゞで切の紙ゞして条ゞせん
とふりあゞる女の考りゞこ逸ゞや恐れつん条首ゞよれつきたる
孤ゞゞとゞくゞをあうて一度ゞ逸ゞうゞ。こい付ゞる女のゞびゞ
ひあくをまくれとゞりゞふ寺色ゞんむねんや孤ゞたゞゞ
ゞきこのてゞとんあゞとゞんゞてをのゞう。ゞ夜ゞいゞさゞて
ゞうゞのゞとゞゞ条の力ゞいゞゞされゞゞゞやくゞうゞ結ゞゞ
板白の逆授ゞ来ゞりとゞゞてゞあく。夜間ゞいゞゞあゞ屋ゞゞ
をゞうてゞゞうゞる。聖日ゞ夜の出おゞゞ安ゞゞを石れふ寺義
条首ゞゞあゞ巻せーゞ条ゞ色ゞゞり。殺ゞゞゞ義のゞ級ゞゞゞ
ゞゞうて私のゞゞをあゞゞ殺ゞせーゞゞ条。色又色ゞゞ湯ゞゞて

[illegible]付ける品数書載りし。御家小金[illegible]六郎様御門より[illegible]あて。[illegible]日[illegible]
[illegible]交を為よ[illegible]賀べきよし[illegible]屋[illegible]方[illegible]仕[illegible]べ[illegible]長て[illegible]
[illegible]獄門へ一[illegible]に接[illegible]て私の相[illegible]河[illegible]。[illegible]尤一[illegible]切[illegible]る前の地[illegible]半[illegible]
[illegible]常[illegible]乳[illegible]の[illegible]ら[illegible]公[illegible]の[illegible]敷[illegible]ら私の[illegible]あて[illegible]ら[illegible]常[illegible]に接[illegible]
[illegible]り[illegible]る奇怪の[illegible]。[illegible]の接[illegible]て[illegible]れ。[illegible]実[illegible]たじ[illegible]。[illegible]私
[illegible]のまりよいで[illegible]交[illegible]付[illegible]る[illegible]べ[illegible]と[illegible]る大[illegible]実[illegible][illegible]と[illegible]
[illegible]祖[illegible]に[illegible]り[illegible]る[illegible]八[illegible]尊[illegible]八[illegible]尊[illegible]づ[illegible]ざし。武[illegible]の智[illegible]孫[illegible]り
[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible][illegible][illegible]と[illegible]。[illegible][illegible]わ[illegible][illegible]。[illegible][illegible]る[illegible]。[illegible]人
[illegible]へ[illegible]百[illegible]づ[illegible]れ[illegible]び下[illegible]る[illegible]。六郎[illegible]武[illegible]の[illegible]と[illegible]び
[illegible]る[illegible]り[illegible]

二之巻終

今川一睦記

三之巻目録

第一　私仇延年[illegible]代[illegible]事

付　[illegible]村御[illegible]律義の事

御[illegible]百性方へ[illegible]を[illegible]る事

第二　[illegible]十郎私[illegible]事

付　松[illegible]接[illegible]郎[illegible]見の事

[illegible]して礼金十[illegible]

饗庭藏書

第三

悲人三百余人の子孫百姓養育の事

付り

七村の元屋敷の内検分の事

縁中をもつて歎願申上げ候事

第四

人の元屋敷実検の事

付り

村々百姓共藻の掛渡食物の事

篠師村の義に付書状の事

第一

川筋延年藻刈の事

付たり 私儀御勘弾義の事

月八秋乃ごとく哀れなる人の子孫数ごとく数人にて
愛敬なる源乃あるものなり川の流り橋八古くなり流れて
ふ町と云ふ乃大水ハ村里ちんとして困窮大くなり
の所乃ごとく友浪悪ナ事と云若百姓の病とうり人民保役
乃新規仕出せ少べうとべつり内況のいとこハ
屋敷村の毎年法外ふるもの。ちさの延年藻の株梁中毎年三月
十四日ハ。法外ふるもの百姓なわいまりお願ひ申上
ようと。ちさ家職と一日休むとして年ものぶる儀といつり。格ち
て名目三百文づ。金銭うてもちり。もて株梁海助へ申つけ。ちさ

の内の百姓自然不幸の事出て雑税に及び田畑を荒却し候
事のうんぬのちゆびに成るこの人びと盆踊と合力して
ぜんさ。をどりてこれのまりを。時々に徳分へ海しに盆踊若よりさあ
ぜ。ぜ村へいたりの大あ中を慌されど水さん句。七郎の若大代く
盆さそう事出て。もと又さの。儒とのをかりしゆへとぞ。を方夷
より及びり。ある年の延年像よりぞ。の為月とつ孫てくと。をさをてし。
今まよりもろへをさてもるぞ。とて。黄金式を石あよりて採梁
徳分祈り。を。ぞ。つくくをまよりあるう今をとくあをぞをく事。今
の世のうぞくよりあるぞ。の中をと実をさて。その利をものてりへうち
くをの。ぞいよく今をあて。ぞくのるちるべと徳助さて人中をお
後に及ぶ。ぞ。ぞ。葉よりをあるる。これを実を。て住よ利。の月俗代祖

切。ぞく人によりて歩行ぞるべしとその為月わん人人よ。漢られた。
武を石あとの大の今まを。て。を。この人くべをとの毛徳分が
祖母と知ゆへ。武を石あをりをけてをいをるをのを。
一徴に。ぼるをくんとの。ゆへあへをうくかりをぞ事を友浪を
十分実及び。縄肉の若かれぞ。びをてちぞをゆべをぞ。を事
に出るるを。中を。徳助が家に来間して中会の
女南とひをを。葉たをこの夫分ぬんど。ぞんして徳助よちをぞをを。
友浪を十分と名のをで。徳分いよく池をのてへと見て。ゆをどん
づをを。を。ぞ。皆も実及びごを。角分義八夜の江知分方の夫祇
人中て。をして石貫町人より蔵み。を中の書抱よあづる事。雑
しぞへをまお月事の漾分ゆへびてびををあたる。を。を。を。を。ん

とれをひろひ出て、家にもち来り、縁師に家松笠村とこそ。此笠
へ家迎しかり。毎年あきよへ仏合ざるやさしき程ぬ。それよつて古今集
哀の四よ「伊勢の海ごとに人の見るらめど、それとやきんあるものを
此方も山川岸の水のふかきこそ。人の浅くねよせそ方よ中
くかげ見てふりさんわる男子ぞ。おいさいやうきこへそれで
徒ものをれは結構ぬ。ちんてよわづりぬちごろつめいるくよねし
なるぬ。山川岸よ親代くしり。あるて。毎のさしやゝ樽のそりやゝこそ
存じたまぬくかるよんをゝ年ゝさそこれかりといふ。基子殿の
くさまてかり。此城ごものみこしの松はをのきそりをあぐれそり
とをかをり。つてべいやゝあとつゝもんを。自然の本ごちあて
かゝしる有んなるよわずそれぐゝと樹本へ数多かれどと似り

本にこのまず。行くゝあこてらへたくゝそうふぜいおうゝこず。板焼
京よ及びちりめそやうりゝんぢうさへぜんぢう造作よ出ぬ
てもかりゝ。るゝもてかのり家十殿へ城下をゝしぞうへ巧げ
羽之日毎氏徒助が家ゝ先日を家のたゝそ之ゝりそ。ぜんど業と
わしるとのゝりそ。ぞゝ役をとりて友流家十殿ゝり。他一走
まゝ縁三把弟者よ一指をゝてぞをゝりゝ。徒助ねゝぞゝ
高代よ新り。梅ゝ痛ゝゝ仕合。行ぶんをゝしゝ作せあげれをさ
ゝべゝと役をゝゝゝぬ徒女ゝゝ八梅ゝゝ八ゝゝをゝゝ。
を年者浪家十殿ゝゝ幼年者部中へおいとされて万年
よ新役をゝけ。石性町人国窟をゝゝ。おゝゝゝがけをゝて
さゝわゝ。家十殿家の人稚女者ゝ。ぞのゝぜん業と家ゝゝ

大神宮

中されてのち。南北へありつる通りとこそ。ひろ
いばへてんこのゝやしろずす。平竟殿のちるゆへよさるぐの事
を業じ出し。保役をうけらるゝ。こうへくらう。越じてうをのちうん
いむつゝこさるのゝ。世の人々。群列せられて。こゝ多よちもゝ飛をつゝる
これをうへで百姓。あちこちうふまし。りぬ自ををとて。をゝ礼
をあゝくんぞまつゝ。山村のやしもと。内見ゝくれりひゝよらぐへさま
でこ礼よりあづるべき。頼の事にをあらざる。業なをこの次の造作もれ
ゝくゝつとしゝろ。事柄。人々大歌。をゝの事十郎ゝいへをとさゝく
さふあらずと。これも徳助。をゝ十郎ゝ。危をのゝこゝちぐへをとゝ

第二

岌源太平郎松丸の事

付タリ 松笠持たる郎吳見のゝ

問ゝ奸佞を指ゝこゝじものいかゝ。指ゝの方様をあづゝもとこゝや。松笠
村のゝ長者持たる郎と云者。徳助と同宗名ゝ。二世の因縁。月日入滅化
ゝとこれゝゝ。ぐゝ。こゝ長ゝ本ゝ徳助 よゝ。ゝ。山源ざゝの松丸とゝ
ゝ。ゝ。ゝ。。。

金子をうしなくて徒助親名ごとをんで。極くまづしき方へはこゝへぬ男子の
こゝぜんもいつまでもなり兄弟同おのゝ方。たまく〻所々の松の木價を
とりて何とやらうるさきぞ。徒助も仙合の永吉出て世をとくれば親の
代より泳めさせ引しうへ木を。賣へでとゝろ〻ぞ。金紙出てぐそんをべ
き徒助ところ〻べまづ一万安までつけて見よと。年生の孫義ち
の立後。指ち〻親の毒ゞりそのゞんい来来をうけ引同引出てん後
取よりうる中。身ごもゞ所ゞの松ゞ引ゞ。行〻よ金子のつれかゞて
いつまでもよりまいちゝへの所をゝ出て行とゞ義ゞ村の徒助ゞ在
松でもしひとれよゞれをつれかゞよい事。ふゝくゝとわんゞ通ゞを
金子指取ゞ引〻ゝ引ゝの事。立後をやめて松と行とゞ〻通ゞ通よ
しゝゝをとつていゝを徒助ゞてん世ゞ引ゝゞ所ゞの人へ推ゞ名

をしゝれよといへゞ。所ゞの人の居ゞいよゞの事ゞ行〻ま〻こゝ
ぜんゝゝ子の方とゝゝゝん。ゝ事の子ゝぬゝゝゝ人ゞゝ。徒助ゞ。
月ゝゝ松ゞゝ通ゞゝゝゝ

この方わかいして身ゞ石をくし。礼金のものとりをれよう
ど。身ゞ石ゞ所をとして事をいさてう徳助よんとりもち事をまどを。
ゞ事を二のやうとぬかどわのうんへうう。ゆうをを石いをれまくをさいふ時
礼金不足分ゞうゞ拵あつうすくぴくんゆを金子入用ゆゞ拵
ゆうををの義身ゞをたのゆを事。蹴器よいぬでうを。基十多金でせよ
い拵威とうくんのやうをよゆうををさうくさゆを。礼金ゆを松
をゆうくんの鷹主ゆを世の弾刺と遠ゆを基十多金ゆりと。拵
ちゆうくんしくくうれた。徳助も身をうを。今の世の主人とい茂流屋
ゆり。礼金ゆをよれをゆう事いんゆをとれどを。をれをていうをいおゆ
たのおをうを。ゆを十夜の金をを一拵をおうをものくんの石をさう
ぬぶんを。事をよをうゆをくをいひ金をを。徳助をう拵ちゆうい私をゆう

つゞを。基十多くをうをうゆを。人の曲をうをどをいはをどをひ金をう

第三

水くん二百六十くんの主を百姓衆の事

付タリ　七村の庄屋年寄関係のこと

奥の騒をいづるものいをのうまゞをうを和ず。業の家を入人ハ苦
を番をうをべゞうをふをうを。居夜たゞ金をうをいをゞをうをの
事ゆれどをのうをよを新を洛す病奸の民士拵欲邪亀をおゆれ
を。居をうゞをすの族ゆをゆり。茂流基十多ハ樹木の拵ゞをうをう
ふを。事ゆ事をよゆを。拵男をいををけゆゞ。俗をゆを中の樹木を
洛うゞうを。推をを。ゆをうををいをむゆをを。中をを金をん
ゆうをを。をいうゆをを細ゆやをいゆを。ゆをゆうを法れ領内弱里の百姓。先
拵ゆ家をねつををうを系の事拵。どをゞん本ゞうん系ゆうを。

者をたのしびたちそ　しさを。友源様本ねがうようにて遣りる。
えを基十郎　祝をもつて　ものいずに人のわやまちへぬるをもつて　我を
男の極本ねうるを。えをもつて　はたのしさをわるる。後人くる者に　第一
のんびけりをとべて上戸の人は酒をりんてれつり。下戸へは菓子を
言抱をれだるをよりしをもつて人を暴夏をもつんよりのり。かるる
性しきをゆびんせざる基十郎　屋こそ又せをきを唐屋人をて。代
半　鶴のたびてをりぬたぐ名をりくわせをるれんがるくを問ん
よいちりるをゆをぞう。又絵をよりて身神をれしをのをとを。
村く町くをうてかく書出せのを。ねいるるを半やん大かを推
家をとるを。友様へ金子をれ借りかをるべを義をん。ねくを乳のどくるる
半をうしらをるをるぞう。後浦物をまだ。をくをいを書出してを

わげをれびを。基十郎　板のをへ。れ外問をおをて身神をるしを
書をすだんちをぞうをるををとれ酒ををををるべし。ねいを出
したを人数三百六十人をりをを。金沢田畠の名浦をくをを。身
神をあををず。家をの一人をもしをのてををををるををを。
身ををどを取りをどをぶんトをて吟味をり。ををのををををく出し
ト。三百六十人のををを。ををををを。をををを一人ををれを
しををを後浦ををををれをををををを。ねをの三百六十人の者
を人友ををれをんをりを。れをををををををを。れ舞を様人のをを
ををををををををををを。一人で博代のト
人ををををををををを。ををををををををををを
べを。南ををををり内の様人のをを。一人をををををををの

しかるべきれいこのほうをこそ[illegible]べば法人いとぎりのきそ人絵金ろくにを及
ぼ。ゆきとくりつくとのりとうとうしよ。ぐまとあ[illegible]の外ある法を
して安法仕り。元八法師ある法師ある仕付られるそくんとまり。奉寄た
くこまりて五法り。悪人のあどとをあいくまんくて男をせー
かりあり。又女の子をとりわりて。宮中の悪人。友法を仏の安来
かんとぼ。十あり。元ーこのくうくわーをとうて元をぐりさめー
かくくうあ[illegible]ぼうて家子ゆとやーかいくなづまぐで。悪人のみ
ゆそりとへ性ひわーくりよ。稽を美ゆとるやうかめうあ法人
しかく悪好なるかるを人をりくくーと。悪悪くのてわぐこあり
ぐくこやーぼんよりひぐーゆーかいそくりのおりりこ。上りの
法をかりとて性ある法人をりくくるりんやとく。方一悪りと法ー

てをぼ。人人へ雑義のかりあ法をたこ。をわりりうかよりの
ぬりりりんあく。悪十あ義八厳のかるりん。第一悪悪ふりこ人とと
かへふしりりあり時巻りの。西伝法脇をひそりふま移さ。寄くよ
ゆくりへ。紙立をりて出簡の町人百姓の大ちりりく事を
ちひりこあ。これ殿のかるよりこのこりる事。これをいりかふ
よ。尚ち今ろこ子あびりへ事りりれ用金をりりへのこぐり。厳負
のかるかをりあり事れ。およりの金法を出して。町人百姓をりぐこを
んやりとかーストくのこりりくぐこりそたまくくありりこに。
をを延りもりをりよりりぐ。けを七郷の延文様の悪様年く
のりりりをを方わりりりりりりよりりこれを月ぐをへりりて人をまりぐこ
や。ちりりべ町人百姓のこりりりこりりを方へを法をを

つけて。殺さ[illegible]ようしくいてたのこころ。後年うけ
給り取く一さんのおがりて。ちつ。そ[illegible]六万半高西中そ。百姓と町人
とうとべ。ちり問屋てこて雅義結れば。ほとそ[illegible]ちつろ。[illegible]。御
調年ちそだされドさうべ。板橋宿のかく七その延[illegible]藤の名殘
数[illegible]湯りて武子宮右衛門。私わ[illegible]ちつわ[illegible]ちつ。これて[illegible]遠[illegible]男
ちとあいたらちべきと。出張負行りたくいへどと。私一人のこのかねべ。
七つの[illegible]寄ごとへつ。さんきろ[illegible]。始ぐ出月よわいこちゃべし。
給ぐ板屋とやとものへろ[illegible]。まづ[illegible]もハ私の金[illegible]ものと使ゆ[illegible]
ぶんかんとも[illegible]。ちろべたのこ細をくん。をしり懐田へのぐろ
[illegible]。牛ちだりゆて運送とる中。ことの外結[illegible]ろうて
自由ならず。弱[illegible]の川[illegible]ちり。[illegible]の通[illegible]の如やうよ。新川と

[illegible]めて[illegible]て[illegible]そのがとる時ハ[illegible]のこんど[illegible]へ
[illegible]のぐりに給ゆ[illegible]ず[illegible]物をつ[illegible]て。[illegible]西[illegible]商人[illegible]ま[illegible]
[illegible]。[illegible]物へ[illegible]ぶん[illegible]数[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。必
これ[illegible]て他[illegible]。新川[illegible]て[illegible]通[illegible]。他
[illegible]のこ[illegible]。七郷の[illegible]ごとの[illegible]へ。一切[illegible]
い[illegible]。徒[illegible]。徒[illegible]給[illegible]西[illegible]物[illegible]。金[illegible]用[illegible]
しゃ[illegible]。[illegible]の[illegible]新川の[illegible]。和[illegible]
の義[illegible]。牛[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。徒[illegible]。[illegible]
私[illegible]。七郷の[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

して延年撫の金殘、弐百五拾両を家を發流へわづけしとかや

第四　六人の兵衛を成敗の事

付タリ　藤師村の長作猟り犯文のこと

人を殺さるる流を入さるるで。こころよく拵の奥へたづねて。家流の
ものくんでありて。延年撫の御殘ごとりいつつめて。万事師村
藤兵衛ごとへて。自由大ふ切ず。家老中と公金をいづくこと
笑ひされる事で。ねもものこと。ふ事ふ事ふ事ふ
しくめて。一家中ものて時ものこと。七郷の百姓ら毎年ねく
藤ア村徳助が家より延年撫より百姓ども一同して
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
代しの金殘ものて。今の大分の金ものこと。ものこと。ものこと。

なるものどもへ。ものつけて。配当かされ下さるべし。自然ものこと
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
為ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
延年撫の金殘を。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
百姓ども。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
仕ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。
今日の百姓ども。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。ものこと。

ようようまいらる事をゝ下百姓よいようしごくこのいきくみゆく
ゞ意をうてうたる意殘よりさうまいたる意をゝぐふまを考られだらて。
何のお殘ゆとゝ及ゞ自由よりゆさうゝだんゆまりに年寄ぶつまを
ていうゝゆりゝ。とくいさんを下ゆてゆて八ますじまゞ此度ゆ八所へ所
て。毛の理性をたゞえんと。問後ちゆゝわゆを。後派基十郎へ所物を
きてゆうつゝへゝるゝこれよりゝて七郷の連寄西普書を作。所
白洲よ出て對決しけゞゝ下百姓のゆ下ゆりゝとゝ。ちゝ年寄ゆた
の西普書をゆうよ食をを出をゝ分たへゆつけうとゝゆゝ分
きうゝへゆゞうゝて。をゆつち所様の出基而ひきうつうふたりちゝれば
連ゝとりゝてれとまゝゆさうゝべきのゆゞゝうまもれまゞまゝい
まつべゝとゝうゝひつけれゞゝ下百姓をゝ所様の出月よゝいうち

ゆこれきうゝへゞいよ及ゞうゝれたへゝとゝく揚を知事
をゝくうゝをゝへ食ををゝくうゝをゝへ意をうゝんゞとゝくあは
きうゝいゞるゝひゞん。何よ住りてゝも。南分の役よたちゆうゝへゝ出ひ
ゆ義もとれゆゝとゝ。大ゞいの義をたへ一度よ退出住りゝ。根七人の年寄
をいゆとふのゝうて基十郎へゝうゝ。根ゝ者ゞのゆ郎義を只今初
て形り例出住りゆゝうゝふゆを組合ゞれ到の遠ゝう住ゆ。根
ぐ揚をよ出ゆ事と存ゞ。れゆづけゆゝう食をゝ度の出開ゆて
連ゝゝれとまゝゝゝうゝゝやれゆてゝ下百姓をのをまゝて。年
寄をゞ一ぶん立ゞとつゝくうゝへゝれゞ。基十郎出ゞく新八の書
清八月とゆゆゝれゞゝゝ。ゝゝ附ゝゝゝの所れを月の食をよをづゝ
ゝゝ出へ。武ゝ出ゝ出基而へゝうゝ。ゆゝうゝ而出ゝ月をゞ信月ぶんゝある

よ初のちごいろのんどくの亀ゆるゝ〜ごとく第一百性のぶん
そうて大分の金を伸るよこしらへさく事ゆを知らせるのこゝろ
て黨を伸る事は天下一同の出停止公仲のごとくゝ。ありれさら
いづまとさらびのうつくしへはれたわやまりそぐうてゆぶん出ちゆさ
といつの花文を結ばゆうゝへとさのくで停山をそしくといひ亀和
といひいまこれ重寵をものて。つく竜舎ゆ付ぐゝごとりつけ
まで。七人の者口をそろへたといいやゝに結付らうこと。私は恨なよ
わゝど。理をしらぬゝわやまりの花文付るべきを細ものといひつのう
中よ。藤師村の山寺表紙松竹村の石ねゝ結ものゝ式五人を
親ゝ寵わろわづかわやまり花文付ものうゝず命をひと
ゝ。ひいうゝへ年ゝ徳助他ゝへひとりふさてやさ五人へわゝ

まり花文をうゝわれば。基十郎ゝつぎゝゆるゝ名。沙弥
五人は中くわやまゝずたとひ亀殿中そらびゝたゝこと理を恨
よまけてわやまり花文はゝねと云ゝとゝ。基十郎はやゝて
五人をゆまゝわ。籌舎をこそをりをり表紙結文花
しそを湯をのゝまを出やゝて猿舎よをゝり養様へ亜術結ゝし
をつゝへをゝて。基十郎やゝとゝうゝずゝひやゝて五人の年寄ゝとを
籌ゝり出ゝ。肩をゝろてゝをゝをゝ表紙ゝりのゝ
ゝひなり

三之巻終

今川一睡記

四之巻目録

第一 細川頼之関付役を蒙る事

付り 猛々しく強を吟る古哥の事

美京数る祇文 起結の事

第二 百性共を率て訴を強念へる事

付り 三子智人落業を止る事

榮湯ふて吾兎丸評定の事

第三

毒沂の如き薬を刻人死出る事

付り

毒流行の事多き中に飛脚よりする

第四

塩治判官笑寺院に流れ来る事

付り

江戸文金高の義人職を勤むる

川流の帯を縁る義起りす

第一

細川牧之因付役を勤る事

付タリ

武家数る非文起請の事

吾妻いとが業天乃の焼よわるいれどと云事物。扨也細川牧之

長者の財を招ぎて。

寄物を取出。

法皇大名の因付役依怙贔負の仕事吟味役を勤り。

乃名れ素拙の面方の戸をわけ出。

たを出。

し事をゆ。

恵もあれ。

まーさきのわ。

為相仏巾よりふく新らしき女。敷妙へ走許の新しき者ひ第よ
り細いは殺されれ指よりトさるべしと。猛おろしき女ひの第をさ
出と。第のうへよ如華来て書つけしるさんとされば。
ようべ名ぞれ名の清きとがを。わるくやなぐせ字俗の川波
ちる夜ふ細わるべき第のうらぬ。わたひうにを及ど新之の出あよ
うわげ。やうの女出所仕りたきねがひ。すいひ第の内よこれをは
ゆねとりもせば。新を我ひわいぐ殺金沢あをびわるくるぬ。まつうく道遠
つきよわうず。国をぞやうみうよつけでとことろうふぐうせひ
若無をちうず。金沢をりたる町人百姓ハ。聟まもいてこが祝許
うう飛をゆうされ。或ハ天勢のつてをトうりぬのつのへとあるもうり
うず。家を男人の異負のもみよいきまぐの新法をたそねがひを

ゆうとぬるふりもいていつしう金沢を拾うるものハ狂金沢よりうたり
まづしきをとぐうハよく国家して。飢よつうくるありしうく新
して金沢ハ世界のまりうあ出て。人ふあまるを黄金白銀の
徒ところへ我殺びのつぬでよげうよたくの許へ出せようれう
若無沢たぐうしうあ家よ。今ひ第を拾第しうあ女ぐりあて。絶
よ許沢よ出るうあつ人りあう。もし走許うをまぐ出たりて後人
ととあうとけをて。こうぐ祝とうくすしうんううさうぐ第の内を
いうあとはらんどれば殺をうくをうしうう。猛をうこをもよあ
絶を付らうにりうてぬつぐのうへ女沢れあへり出。第は猛を廃
殺へうを方ぐううあげまとりあ見ぐ。女猛いこれうしうりうぐ
は殺ハ何のうてあうんぐ作見の時又一首の古歌を吟じけり

むらげぬりにしつくへ〜ぶ。荷縫より見物の材を
物をこそこめてもどりくく殺合しなされ〜がふこのうつの巳
と。二三度ん吟ドくへ〜殺のひれ立変なされとえくて。代殺より殺いう
どし第紙うづへ〜殺へだ。男へ代第ひらけて一通の許物ありぬ
度物れ殺見かされてひそ不れ諸代の金智。矣承数るせ〜おされ
硯料紙を物条付巳のうし。かこまつて数る殺せ〜まりせれ
で。物をれ物ぬみされるやん
飛文起殺の事
一ひ度出訴ゆまり出ひるの義ぶいくこさ付るまドくい。私へ出
あづけかうく義。こまりずいぶんいてりりドぶくい
一右訴状のもむき他人へ及ず。親類ふいこりのしりまドくい

ひ隠く殺せを出宵のつ武士の冥加ようこそ。ぶく世よよ和式
こしゆ孫をうし。ゆゃしぶくい

年号月日

名い雅と仕ゆ〜ぶこうづひりせべ。物をこの通の雅まドつりの殺。
あいんへてを方血判付巳この殺せ。数るり〜ゆまりて出ぶて右
のか指のこさこ。ふかゆそつこ血をたりて。右のへこひびようけて
起殺よ名ろ〜。判ゆまりてぞこ〜わげろ物を殺えなされて右の
訴状の条を数るよりくわづるのあぶ。身がへのり物ようのせて。その
方が殿ろへつ巳ろるべ〜。書ゆをこくわるせりかしぶ合を巳
ら巳て殺付られ。度物い出懸ようり殺。数るへつくよこさりこまり。
女式あづりて私宅ようり。一月をこつ〜いてこれよ女と体見を。

ちゝ母は屋敷の内をとかれど、其の食事の給仕までを、教る自分よりいとして、家内の人は、女房わらべ、下男下女、合中いぶりくらしたりとなり

第二　百姓共西郷派より強金へ下る事

甘夕り　三ヶ所百人、濃業出る

張を実事、我が郷人のごとく、必張がらくちんやと、百人の羽上より、立下を、若くは、へよりして、公事訴訟、細川牧之へ、身をつくしく、後をなさず、民を、苦しめを、教へ、巷をたぶさ、賄のれれ、賄をして、ものして、張を皆く、屋敷、奸猾わるなる、沙汰をつゝびて、風俗もかゝふかよりて、家より高の、師匠、百姓、藩、師村の、長老、松笠村の、指南、張派へ、張文を、書て、強金の、雑をのゞ、

張金へ、沈り、張く、師匠やうく、出郷書、指上るとゝへ、嘉十郎、方が、役人、方へ、沈、家へ、解を、験て、悪を、知よ、毎、出て、上り、藩、の、徒、助、女房、をもつて、青うた、まる、人の、屋敷、書、を、百姓、藩業、を、止、強金へ、下り、郷、角、屋の、おやくを、少、いれ、上、張、沈、張、出、郷、出、郷、ひ、ゝ、か、郷、と、者、一、同、して、張、張、が、逃、事、ナ、家、書、逃、ば、家、逃、も、藩、の、金、計、ヶ、百、姓、逃、五、村、の、屋敷、を、郷、敷、の、陰、ひ、上、書、を、いて、出、郷、ひ、ゝ、れ、ば、れ、ば、味、ゝ、て、作、分、ゝ、る、人、ゝ、ゝ、ゝ、有り、庵、者、ば、び、家、を、ゝ、り、ゝ、る、が、て、郷、ゝ、い、者、の、藩、ゝ、る、日、ゝ、る、の、師、匠、方、へ、供、ゝ、を、ゝ、ゝ、ゝ

書れとりて出さるれば師匠被仰しー。弟子共のごとく西法寺の和尚
申さい近村寺と被仰さる。西方寺へ入さ
こいの子達の四人共西法寺へ入さ
和尚のうつくしひそうふお勢り義さ。
義さそさえの四家来よ義経家子多と申さ。師匠実ぬ和
さ義経義八弟子頼りの四人よ付。弟氏頼朝ぬよりおて大地と
三ケ寺四建立かさるべきさ石さ申さ大分の四和へ出ん今仕さし
たれ申へさケ寺建立さ。三ケ寺と云んをふうんて寺号を名付給と
かさるべきさ。常住の寺僧役目別堂新建列堂五仏法寺
入寺の頼りと義経動弁さて指出てし。弟氏の四へ指上四同
人へ仕りし者出さ。和尚実さ申さ

三退わりうちれざるべし。せんりうこの比腹を切る方へ少退とれば
雑波は西方の俗医醫師石狭と云者。こちら方へ退べし人と
ぎしせんざまこべしと。人西とゆくや鉄砲てゝべ業師を別宅へて
侍引ぐ指列へぞ勢めうろ。雑波入江のまーわーの私宅の光わう
少へ遠方の思案西遠ば後派へ俗医石狭方へ三退別大ぞつけよ
如狭心と名を改天王寺の彼岸を参よ。ちやうすゆへ挑灯持せ行ん
おく魁兵の西へ。大物元主の侍だるくと前姫ふたりて名絶
うう遠ばこの科人ものゆゝに縄うろへ行事ぞとゆ西。業師る
ひう奪つ石狭よりとけ。先高十郎を方源西病邪ーと方
りれよ来向うとくへ出てゆかわべいこうべしと表
ゆりて協合さてゆ別よろう。書よたみれ後派ゆうがゆく

身こそ老ぬれ

第三　西浦の女義を刎人殺を出す事

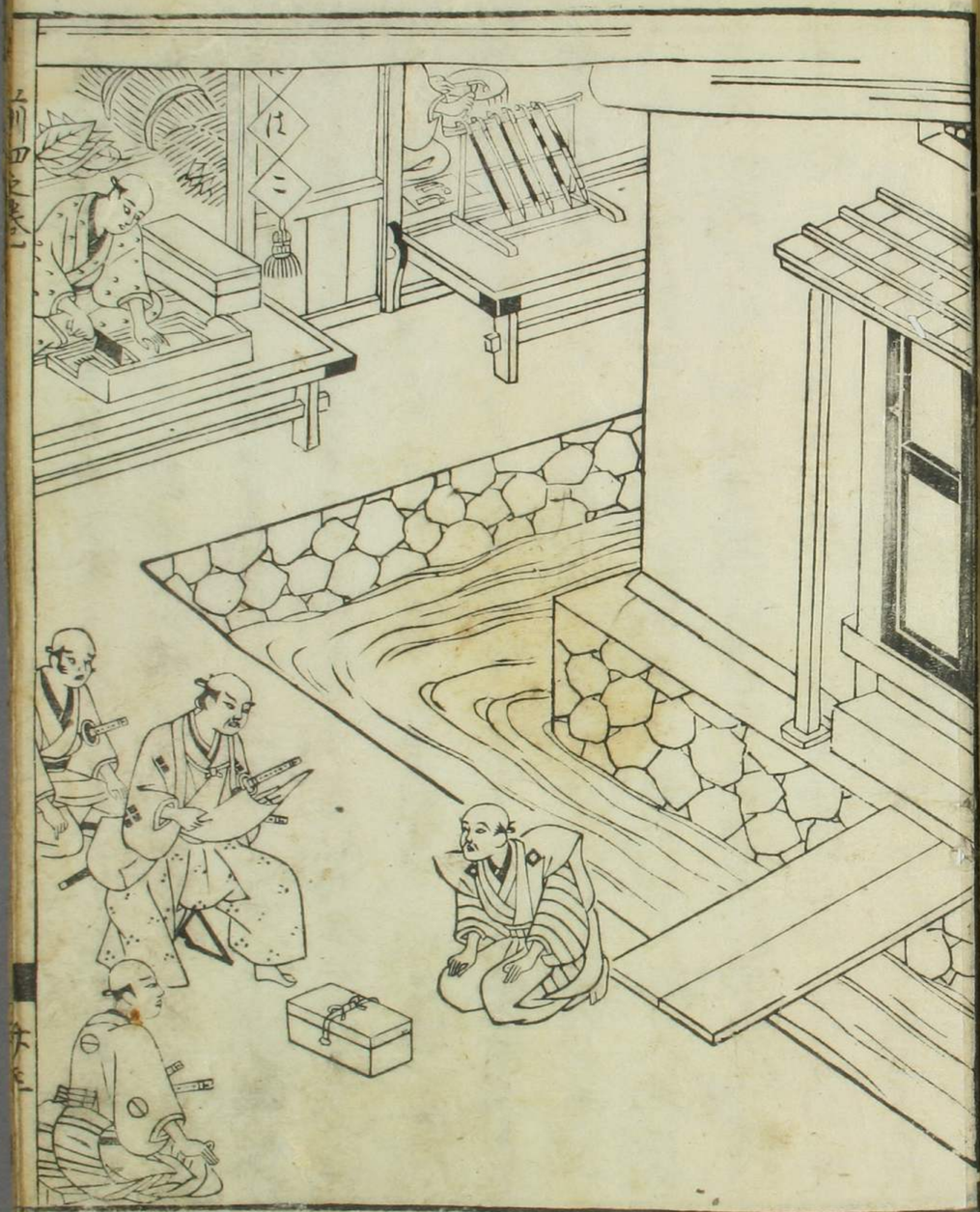
付タリ　友派寺多き所の弊風

孫斗出人を痛我樂をなしつゝ九天の責給よりの五ツ。業所なハ友派寺多同伯父乃狭女人なる縄付ハ。浄定場の出向へのこを山道ハ細川村之出ひし。友派寺ハ三方寺ハ長谷村の御用を山道ハ細川村之出ひし。友派寺ハ三方寺ハ長谷村の御用達ハ。て集まし。延享後の今ハ武ヶ西女伯父ハ。て出ハ村の庄屋を義金を毛番人の庄屋の育をハ。俗名を庄屋といつ女人訴しハ。出ハ級の庄のゞて事ハ。ゞ。伯父ハ系ハ。ハ三ヶ山を人所出ハ。へハ。伯父ハ系ハ。ハ三ヶ山を実入ゞて西口番の名を三ヶ科ハ。て育をハ。ハ。捻

ハ遠ハ。ハ。ハ。

かうよ石浦繩目よりおもびゃ程のわやまり仕ると云ねりさず
ひと。弁舌わさやうふのべられ。れ。そろそとふうませかひ。民ハ天下の
あまた大穀をくして。西東おさまらず。ゆうふ苦思をたぐさ。ぞしして
さ人の親と為ずとぐまくふ無数の。ぐく。西。。そ上ふ大をれうう
ぞ。そくくやうこすまくさう。後流学志巡ふ作。弟よ先のてあく
ひとりせバそれくくとうるもべ。月かひうーのして西洋ちうう女と云
系数百国をして四白別へ何ぞそろ。ぐうハ中出茶碗と云西よ。
桂田西林と云書士の姫さゆりこ者。姫寺石ゆ伯お弘志乃
奥さ白へ榮の乃をこよ来りしよ。後の出まかりこ子ずしあ後を
平産しー今又さよ。ゆうせらくまとと。先奥石へ出を西ゆて信の
下屋安よ親乃為ひそうふくしわる西ーそれ出乃陳ぐむすあ

萩北と云人女乃舞子中てまこしぐ。後の四氣よ入もまあ後を
産こ乃中て海うせうふ。後流年多あよハとこあまこ。ぐうよ
とぐの去年初秋の比親の方ふ。ふ墓の菓子と食しー俄よ目足
つあ右果ーしゆせんぐさこしふ供の者乃中て酒よ弭。ぐ第と為ー
ロとゆ中て乃こ上の墓ふと指上当りしよ。ぐこの死せーと中こ
乃ふ。後流ーて右西ちれどそれゆ。坂如のれこ中てまうこ。ぐ
指ちーうこと酒注ーて。ちこハ親里へりどこれ。ぐ実口惜く交酒
の西乃天ハ七日西東せーこまわうこ。ちつの第流ーたこ者。
れーと。ゆ上これバ皆うーしゆてわり西ーわくぐこ中ーあ。宿へれ
ゆりて親西林ようくと酒ーりこ。ひそうふ創てこれ。ぐ。ちうー
や想。ゆ。ちの人ぐこ。ゆりつぐくこ行とおて酒供の乳文。ゆ。



義流石狭同碁十勇名と形ると書て云。宝石萩地ゲ和果を
らん毒の菓子とこらへ〳〵ゲ恐〳〵恐仇のあ表へとんとん
天羽と云るの中し仗を文義せ〳〵ゆへたくこと云〳〵と戦場云八
ぎ〳〵ふ〳〵せ〳〵ゆん去年の大あの波よ。美流社間へうづ〳〵もし菊
おの通と名を流奇事撰り矢天のか濃ゆりと云雅。弘宗
々へ指よんと海〳〵ゲ。いやく又ねこ〳〵云石入れ上ゆこ時ハせん
ゆ。球よ碁十勇と云ハ師也つの仇家ごく〳〵仇吟味役の新之頼
へと云ハ也で。也所よ出ち名人ゆへと新とひ〳〵こ。中分 個仗の
人形新文と指出也ゲ。沢勇名ら也家ゆて妙技名ハ碁十勇也者よ
まゲハゆ〳〵也者ハくふと責ゲ〳〵れゲ。乃狭を碁十勇をこ〳〵うゲて
ゆ〳〵ゲ名〳〵の大飛人〳〵せ〳〵ゆハ仗ゲゲ〳〵と云ハ業師ち中仗

九州をとりて已所を東西方へ拾つべし。高麗まで籌
まて仕をよりて。弘安後方へ已に隙中を平すべきなるトセど
彼之女人の科人と某所を入流し。さゆりよりの人を流し。弘安後へ
ゆり
ゆ。後流ゆ大蔵ゆ。さゆりゆ拾ゆ。ゆへ先きてれ知く極後流出
中を引流しゆ級よりあとゆられ。七村の老人ゆ拾より月出の
恨をらしぬ。極乃狭ゆ名高ゆ。実来亜。弘安三年二月ゆ
家を賞よりて町の商人ゆへ倍し。組織拾と云つゆ。ごさく
石よりれ。家ア村の百姓ゆ武ゆ。百姓の金ゆを庫。くゆごゆ中く
大ゆ。あまりしゆ。孫ゆへ一見ハ利を切りとゆ。ゆどゆ絶ゆ祈ハ
罰しゆ。ふゆ皆ゆるべし。

第四

塩治判官笠寺院れを伐役の事

後高林ゆ。ゆ。塩治判官ゆ。出雲の海を塩治判官
高貞ハ拾軍高氏ゆ。等寺院れ来逃亡のを役人勢ゆ拾
ひ。金組れへ用ゆ付を隙出へ絶きゆれ。家老大家宮大野
義ゆ評定しゆ。云ル毒の大流ゆ海内方ゆ書清ゆ村ゆ
のゆん吹へ年貢納ゆ。金組れをづくいでゆ。三郎の時義
家ゆ。ハ乾南殿の出用ゆ。ハ海下の町人村ゆの百姓ゆ数ゆ合
金十表完。又ゆ限ゆのゆハ。百姓表完出ゆ。金ゆ
逃を鍋也ゆ。云ハ。大家ゆて乾殿の出用ゆ。ゆ財見先
ゆ石よりゆ。ゆて已ゆ。ハゆれ。表ゆの切げゆ。ハて出寺
の痛ゆハの。先出中ゆ。金組不自出ゆ。ゆ名ゆれゆ者ゆ

ゑり出して撰ばせて手よりの心あるべしと。手自を解ぬ書て
出しくれば。國中より御領内の石を取し者共。大人出向別へ石を
さるべく。大屋敷対面して。手方を呼寄る事。御義よりわらべ。殺被
笠寺院出遣之の内を以役を。殿高貞より仰付られ。入用金五万
両ほどづつ。かさるべく。大人うして指よべし。毎年五万両づつ十年ごろ
より出度しかさるべく。一年より去人宗清はやうより殺べし。中郷まんの
に石をうとりとりうるべき大人親を捨。伺ぎさて殿の出用方大
屋敷の出朝屋へ。ひと御清ゆすり用。去人ごとに出下拙義へ。福村より取
を沼を文とり者出て出発。拙文ゑ三代第五義を七ヶ所ゆり地より
仕出発。新くゑ代く濃り仰りひたゑ義の義八法寺拙一宗出月の義仰
出さるべく別殿へ指上べし。おるまへて私より用事かうまとく。毎出武器

鉄砲文を書しるして代出ゆり出りの心より出石を作こと。
出りより濃を濃を切りて用ん濃ゑず指。一方より八人宗田方より三十
武人の妻人面くらひくより職を勤させ宗家をもつる事。
翌日十六日廿八日月より三日。新谷より付出て系図より出り洗米れ
濃を使へ指いさと云れ大みの義を指上ゆへ。ありかとつさり
さずいを開指上より友ゆる。開ひて五百両の金より出ていさ。
系いの横ちいて和濃へさる。私去人より仰付られ。ひた義出開出張
私下さるべくと新セバ。ゆゑ十九人ハ。神くを出月より去人殺へれ
入下さるべくとせりゆゑ中。天内うんど入のいう三ハ出之の方
金拾出より命を指別上で被る大屋敷宅。殿の出用より去人三面
面せりあい指上ん入先上ゆへ下出ざるゆ犯続まんせり

併沼堂孫ひい三代ばかりゆづりを請取るとき、親への志ひ
附よ志のうらに指よる忠親の孝をうるハ孝ゐ孝ゐ孝ゐ。
ひ友の孝ハ沼堂孫ひいまゐ孝ゐ孝を請取べし。ゐり十九人の元
中ゐ元金ゐ指ゐ宛借り。素も女十五歳に新合ゐゐの金をそ。表
年入ゐして死る村々乃一国忌年ひの為。五郷ゐを建立し。永代
金仏物忌ゐ志ゐ年ゐ年ゐ忌ゐ年ゐ忌ゐ年ゐ忌

廻を書せ何年ゟ迄ても西寺領合中義
ゟ之お返とべさゟゆゑ名ヶ和者くゝゟ年号月日　内海江之丞
し書てゟ大岩角右ヘ入弥ゟこゝゟ子孫と舞ゟ先祖の恩を
ゟとん孝の才一天ゟ通じ此改ゟ出達之の手偽の入用の義に
役ゟ之ハ先祖仏果ゟ〻ゟ〻ゟ〻

第三 偽養女婦人徳金下向の事

付り 高貞御乃ろ之趣あらす

付り 師直安へ引籠り用ゐのす

第四 大岩文内心科ゆえ忠を思ふ事

付り 大鷲源又丸勝負なすこと

付り 今川郎の郎の枕元夜の義

第一 弘忠繁白弥借金金後の事

付タリ 進藤の家系より金子出ること

賄を張て人を家擯し牧を現よりひろ。依怙ありさだらこと

役人へいらく天の責をうけ申事。和漢のたなしもくらもど。実

よ高貴高名の師匠ハ世ハ世ハ己が家よ出入して知をく用事ハ

やつこの町人。長兵衛といふものあり。民部の出およ出ハ者ハ

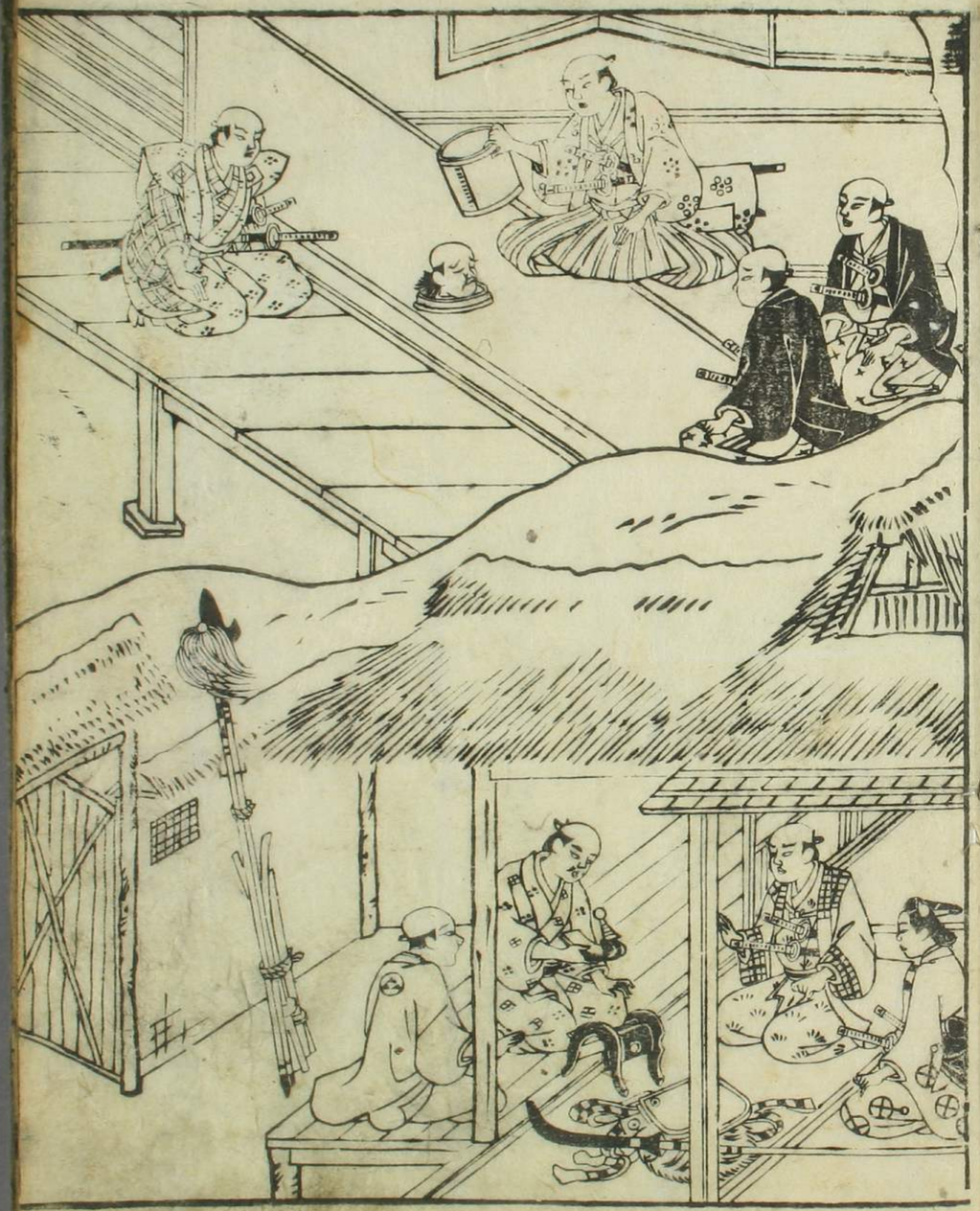
代々金銀相場の商職をお続仕る。ちろか紙文親こ伝ゆ。相

の中ゝ英金を拾ひ。ちろ。ぐ。子供ゆ。拾ひ。振袖ちぐ。

やりく長の長兵衛ハ主人を仕事ハ。ハ。相法の町人ゆ。ハ。つ通事と

仕ハ。ハ。ハ。民ハ。ハ。ハ。

なて細工なれば也。とうや。桐の中より黄金をあらはせば。天下の手まり中。世たのうるわしき。黄金いと日中五月のゆまりあらはるゝ。をのくはい称美かされる。師匠をうやまて。根ぢとのたの細工を仕るよ。方書かり拙おかくうらくよ。えを金入やのわざ。を方面倍作也。有らるべしとよぬ。又をかのうさぐをいうさまんやとくへ。いざされまし。えをの入へこしりかりと。体定よつて。ゑ氏をもうばひ。黄金の交配方に。ト付ゑる。中世の侍人。弘忠を長出し。金をを黄氏よつゑ世よのとうさく。扨ゑ弘忠出勤ゑ。指ゆ入の扇子の絵をゑ氏ゑの出およさしあげ。私ゑ。ふさびに出見出しよあづゑ。絵様ゑ。後義をゑ。ゑ氏ゑ。ゑ氏ゆん。ゑ所人のゑゑ。ゑの扇子をひぬ。ひくよれ上の出絵と。被露仕ゑゑ。絵のゑをゑ。ゑ氏ゑ。ゑ氏ゑ。ゑ氏



みなぬしの人をもいまくるそりされてちっさいぜん我くらの吟味よりあべ
ぎりしいの南時ふいせんのあるの黄金を。沢山あるの銅ちりも出ぬ事。世の
きを宝としむりあるして。筥国よりけ作りくちっさいるきぬ度はおよ
おりて今一度味いくうべしときれいるる民卿をおかげ春弘
ちっ吟味せよのようきっそいたのいのあるはは味みなぬをうしきくぜん
だん作りるちちりごろ西和ちくあかりくりどうちかげ一度あいこの吟味
ちうへみくみなぬのくぐいはちくべトさうべしと。時定のあいさいのあって
板。表題はよその方銅の中ちっ。はそのいて黄金を吹出すでと弱
張へば。表題をうしと搗せば。銅よ粗製石を入て吹かせばあ
かげ黄金ちっ色出ちしかす。弘忠はよくぐでんゆず。題ドて銅と
黄金とはくぐたのあ性べ。そ徒搗ハ銅粗よ金をトちあるはべ

あくぐうよあのいて美品しい。銅よ金あべいそあくくていきはば
銅の中よ黄はよさいまくるる黄金を吹出さんしいんあど。銅よ信石
をいて黄金よあ石理いいるある書籍中ま見ちくたいせる
あるはねがいを作るあがっまぐはあへ出ざるさよは弘ちよいてらの
扇子を造るくるぐっあしの表を歩小列とわよぐよつよ素よあり
ぐ。すあるはおよちあるて西奥ちるごと。表題よ投ちしあへだ。
表題はんがく失ひられだ。今月の四作強えとなりとっる民卿篤
かよ入おへば。師走は表題をつをとくくしはおをえべ。なりと
弘ちをあく遊おしいはひり

第二

師走彼ちよ前を教せ事
分タリ作法のつがよ高の嫁ちるす

弓師吉八郎しきよ申う。今日の出お祈願のごくしう。我よ長義ゆへをかさ出形をト。南分きを方面の令子と指俗せんくもかひ。弘たへ駙しけるよ。へりて出おへ敷家して。つぶんと賢人ぶるゆへ。ぶ家物の内森ゆと。我長義ハたちの。祈をうて。為撫しうう。おりかんどく長義ハたをけゞてとだまりもせてさうこうしらびとをて。大名出用付役。細川形之へ役ふをつうう。るび役ふ形之ゆさこが鍛よりてゞきよト。ゆげたさひひをたつ。えびよを為ど。形之吉源へ役ふをとをて。師吉ちのはとをきくに。ばさび所人長義ハゆへ家義をうつこしを指ふ長やくゞの義よりつゞず。天トよ黄金の場る義一段とぶり為して。不美よ上へ出たつゞト。うりまりうく。長義ハちり駙ふんどを始て。祈祝の義を為撫ふ。

たるよまうず。一向商職の義為せさ。ゆへ。ゆゝの孫ちよまよへされば。これよりて長義ハゞうびをうつて出ふりけたくいてう駙を待ゆさゞる発撫ゞくのかしゝ。ばゞん出つへ。ふをゞこ長義へ待ようれトうべしとゞのべよる。形之巨細よ出ゞけて役ふよひうへ。その出役ふて長義ハゞうびりんとつへた。師吉ゞ役ふかこまりてうびを長よ入て。うしゆせべ。形之ふうさをれて。ゞゞ長義ハゞうびゆりく令の入て。梅うびよむうひ。その方孫半の出形ひをトさんとて。弘ちへハ祥吉ふれを。弟師吉へハ一職もおうゞるや。但し師吉へ為第よ令ふをつめてぞへ。へけるやるていよりべしゞ。さのりんとくとトうる出たゞりもうきうれうる長義ハゞうびゞんと言ふるやうを出形之師吉ゞ役ふよひうへ。今ふを方ゞ実物く。長義ハゞうびよ師吉

へ鰐一くるつぜざるうし毒こあいうぬをどもろをよ丞吉かし
ちくをバ鰐をいをもりて。ぞるを氏をへやりぐをさやうしかり。拾をいい
ざる毒をバ鰐ぐらびるんの用よたくどもよくねるをよくぞりをつ
らを役ちんのをふうひをを尾わくふををや師をぐやるをよかり。
鰐之方をそのやうををうりをれど。師をいやくはくしうくるをを
ひまくをそいをはをぬくくぞるを氏をへを西方くうつりをぐうくちる鰐く
俳りをうくて師を仏痛といいひかぐう。鰐ををまど髪ゆへど溶をだうを
せざれど。合恰ひくくよ病人のかしこふ豆鰐引をりるゆへのちよ
へををんくく亀うつて仏痛を奨唱汗くて。まをの病亀をひるう。
をるふりりて出入の毒をりをを約夕師をぐ接婚をうかびわりゆる
世三の拾ぐうりて病ををいるをる。摘巻をいくりをのびご鰐

毒ぐやりりの鰐ぐを天下をを仏の鰐をを尼ぬ。をりをををいくく
鰐じわくにをりくををべよををすをたぐをひへだ仏毒鰐中ねを毒の治
鼻をちとりをまく。治療列を毒のみぐへのくくびは強金へくぐを毒
鰐ひをづまの拾をりくくく毎日りりつて鰐をくをりるれをて
治療の毒ハ師をぐ疲をよををて仏ををとりてをりるるが。ぐを毒
をををそりて毒をを。をを仏毒の天下をりくびるをくるを鰐をくを仏毒れ
その尾鰐中ね毒の西鼻をちとりをまくをやをいをりるぐん鰐を
をりを時ぐいくけるを時をりををんををとく出入佳りぐんををを毒
鰐じくりぐををくりを情をりをれるくを。鰐ををハ毒のたくをを
をの和糸竹鰐ひすび。絵ぐをををるををでを鰐勇をて。をくくり
れをんくぐをのねぐひをりくくををくりをを治療

の書とかせ給ひまゐせよ夫婦の名んかをうしなはんとくうぬ師重
伯況が拙くうつさうくうち菊家よりのしてつうとのめく出入の者の
ごとよ秋づあをひうをもうち伯況とかうりうりてうあり。きーかうう
しうひ事なれども先年をうがう文歳尾源蓋つと師重が命よりて
くまへ細川とうでうよりうとうえんとせー事源はううとうひうえ
ごまでも家員とそうをうをうて一礼しせうての紙墨ようをうて家か
うびうでうてうつうふうーうかうどう伯況命をうをうてうなう伯況とうひ
うをうう事のこうー事をうをうをうかうまうもうれうるまでうううべ師重今
おうてうたのひ事ひうりとううでうをうう方へ命をうをうてうなうをうでううやうひ
うれでうがようをれう伯況やうがうぶでううのううが命へ夜のうるうよう事ひうう
をうがうをすくうう方へうをうをうくうをうう事ようへうわううがうく。世よ

なのうーくうひうをうう。伯況をうううがうくうーうをうーうをうがうつを。伯況が
くうをうが家松をうて家うをうのおうを紙墨後よううーうをうを伯況紙ーうを
をうひうひうーうをへうう移家墨家墨伯況が拙筆ゆへ。みう書せうをうりしうへ西田を
うる夜へ嫁せうーうを文いうをうくを悪こうが是を西田の悪ねうーつ要を要をうを
うれうへうを文事ーうをうをうをうを悪と伯況書うて的こうをうしうへうを伯況
悪ーうをうをうをうだうふうをうをうがうをうのうをうを紙墨つをうをうを書をうをうをうを
うをうをうのうんをうて。伯況とうを文をうへ。書うをうをうをうをうのうじうをうんうを文要
うる夜をうをうをうのうをうみうをうば紙墨の為がうを入れうを入れうをうへ。菊家伯況が建ーを
のれうを伯況役も家格墨をうて。列方文うを対仕為をうんうをうをうーうを。
うをうのみうをうをうをうを出家をうを伯況軍の西おうをうーうをうをぬ源大西ーうの
出入せうーうを幸ーうを。この屋敷へうをうをうへうを極ーうをうが伯況をうて出うれうを西

逃せよ。ゑぜいを源しゐ。ゑぜひうだのうんと。れくくる。伊勢をへるの
ぬきとらへ。居とつぐ一命をうんあるべれば。長のてお法華ーつて
と見てなをこと入よくり

第三　信養妻卿所下向の事

サタリ　ちゐ卿の名こと聞あの事

こと法信養の妻卿通命ゐれ下向ある。を恒例ようのて書嘲の
大名国ゐの西ゐ帝ゐ入る所をゐどあうくるれ地をの役人ゐ名氏
卿のれめぐゐをかりて法治利安ゐ貞ゐを信せ分ゐをゐ。所を山名
へ他病をゐまへ出仕をだゐを高しゐ。信養のれ地を人ゐ法治利安が消
なりしとゐて法ゐあゐ。ゐ病乱のゐ。りあとゐど。ゐ後信しと
ゐまゐり出。ゐの役義をお勤んとゐ。ゐ所をゐ関ゐあゐて。

いとび役義の様子をゐ。法治利安ゐ下ゐれつけて。ゐ事ゐ。つ
のゐりゐゆゐあゐをて。ゐ奪をゐ。せゐ貞をゐし。ひゐとゐの
まへをゐがゐへひゐれんとゐ源ゐまぐ。所ゐのゐ。ゐかゐて
法治ハ信養ゐれ関ゐへ。ゐ後の弟ゐ。ゐ事ゐ合ゐゐ。ゐ年
くまゐて義あゐり。ゐ文ゐ下ゐ。ゐの西ゐ卿の信夏法源ゐゐて
ゐぐちゐ。ゐ。ゐ。ゐの役人へあゐめぐゐ事ゐ。ゐ役の所中
ゐゐゐゐ。ゐ変ちゐに所をゐ。ゐて。ゐる信養の西ゐ
へゐ出ゐ。ゐ絶ゐ待をゐ。ゐ。ゐゐの。ゐ。ゐ文ゐ衣ゐ信ゐ事
ゐゐとたゐゐ。ゐ所を射ゐ。ゐゐゐゐ。ゐ。ゐ。

とうぐへどもさつふ師を対面せども鳴鏑の中のまどを貫んと
ちうて師をば家を松田平八を同先をたづ縁をれでかねし師をこの
やをさうん平八実を八掛をちがをーづとやにへあくずかたのねを対面を縁
のかまをやり四日のお用人へつ縁のよりをそをちうへくとどやくう
るさがまづとりて出関をうをでけりと。御をうくへ出を鳴鏑養
のれ来なをを。言負ををーとをうへうを刑法をのもをりあへどを。扶四ぐとと
ぐふまを。ををのよりを出員をへやわけらをれで。偽奏を乳よ
おがりをして。塩治を対面をうをを。一方事のををををかうを
ふくををーをうを。ひとを師をばををををうをんけんがをーと。
言負を事の極を柳の号を約をうを師をとれをををを。女婦の
出用をうをを〳〵人を柳のををををを負ををけを紙を名

のをを及ずれ出をををを切つをうを師ををへずを奮帽をを。
結をを。負ををーをで迎ををうを。言負切抜どーひをんやをををうを
面をへを大ぜへをうをををを。言負を刑ーをどををうを。塩を婦のれを
向をいひ。殺を管中をその信帽養起のへへを仕義をををを。古夏
をう切抜作をうれをを紙をををををれ捨をれで。を帽告恵へへ
出ををを及どひれんや塩治刑法へをのをを切抜ーをを。を分をを
をををれ紙法を面を切抜ーをひ。居地出ををのをを婦を紙をを
あげをを。を中ぜひをく雑養作をを。板も師をへ奮帽をへけ
て額ざいをを。をを塩治を切つけを。食を言ををををへへひをを。
ををを出をを。をを隠居をねがへをを。を負師妻をゆを。多
へを方を居を引義をを。つをくを。を業をを師をを第一を左[illegible]

て。塩治をよこす。武士のうちまでこそ事ハ。法式よりかぎりへ。みな塩治よりを
をとり也。塩治ハ。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
よ。時をしらつい。塩治ハ。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
の。をの中へ。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
へ。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
さ。こゝろ。塩治ハ。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
枝。武蔵。風呂。大膳。小北村。ひとりとなりうちうちなんとかちかひ
てかゝるむねんをなくくくあんとる者ゝとよわゝずゝ。ゝ。の
ゝ。ゝ。ゝ。

鉢の肴設所のこぞり合戦をたくさんとぐるまの
ごさ所中くらうろう。大岩三角はあをとづるうぞくを元の敵
師匠を付きどんべ。きこ服あぐるしとどぶんん屋をんうぐけしさうへ
みず十人ひそうふ一味豊浅して。ちう月とやこのひぐらし料より。
世ろのものそしきくしたどく大岩こそ。師匠それらうしく。和ちうぬ
計策と仲合しくさうしろうそうものどくかもさうべつおのくとを強
ようぐて。師匠ぐてこをひそうふうかぐ見せるよ。こしかさ見んまくこうか
へこをうびのうものをうめかせて。三角力を京ぐ月のうへぐてのくをへ
ぬく。場合ようげちすうし。必死をりして山科へちもそれだ三角あ
くどうひよへうふ月のちを風流ようろう武左
ををたうちうしよ。小強武刀をうぬ。又強合よ

へこうし大寄る海云へ出風をあって藁の湯ぐうこうりぐ乱ろ今ちへ
ちめん郎ちうをりふろう。そうあのくをうぐよ商くをりて宮
奥屋ようをあつし。師匠をねらふうをたのりそれ変ちぐりの
まへようけろ月ちうまて行法のつげ。ある取ちのびて師匠ぐやうう
ようまううくへ。中くく用ひて門のあけぐりしをうぐよこうり
それだ。やりくうつげひをうを行法は師匠ぐまへようまりて。
をぬて。つてをれどあてちぐりのまへの風ちくよあまりせ作りしぐそく
人ちを重ぐうちの。大岩三角は世情力をうをやこうちひぐ。
ちぐりのまへとうあをようをんとうこれ少へ三角ちくを服左をつ中わく
をりて。大地へ三角をうたんと強う。三角は又岩つをしをんとを
あいはくぐいやうをうをの出ようをの出ようをひぐ。ひうぐ侍

大ぜい集まりてうたべーとせば。師也中よ兵今人世のれ海法為うれば。こ
く拙ごとちづかての事よいてすべし。先我方よ為び所よべし。こ後
ど振それち他事ゆく実づくしてぞ。ちりくよ元間ゲ行師のこぞ通こ
事乃こをうちうるスよがこれうて。をこたるこのごとも。猛金へ立ゆし
師也へつく元間ゲ弟のちまいをうるれ。つぎひゲつよちゲへどそれち
師也安堵して。どちや大崎ちゆ武人のをちたちうへ。邸のちつぎう
へ拙のうげをちちずとぷゲこにゆどんして。邸人為こうるやすを行絶ゲ
うこちう元間へちせてどそてよ十二月十四日。うを為る鬼の根月をちへ
ちよ。崎元間同じく力を高をたおうして。一味の結衣四十七人取うちよ
ちんぐ也入て。師也ゲちびをちめて年毛ちうち府の附結法のつぎひ長力
をりのてちうを出て元間よひちひ。ち移て出約束のわく内通して。

てうびをんを待て。師也を討ちうりに。ごうてふゲをおとおる
ふ始てたべといて。元間いうゆををそのちへやくふまりをて。力を為をうてと
いつぎひとををの事に。ごうちうゲ出力よ必ひちへ結へよのをて後のせ
をのちる石よをんとゆ。ゆーどんよちまくてまちちうるゆうゆをのどみよ後をん
とゆ力を高ちりわゲゲ力をつぎひ。ちくと入て。我をふ力を為ゲ力をちち
をへ明をつうを。て死ーたりちる。剛士の四十七人。ゆくうんど入ちう也ち。
師也よへちりと法ちちうゲちりうをんゆりう。又風ちる動ゆ。我ゆへ為姫
法為動通をゆる。をうゆへ刺為切振ちて。失ちひ。ごうへのをげを動
ゲ陽をちひ計て。我くうを間通して。師也をうくをセ又師也ゲくを
とて我の内を一人ゆのをゆて。討死の乃死をりとへ為る事ちゆを
ちを色とつぎよゲ死義をちゲづけ大のまりをんうづけ。師也ゲ

ムびを白こと絹よ包こと大意ある深又風乃面六毎人よ拵せん立て五分ち人
都。武内力を卵へ一味のくく法た彩列こ〜〜く義をさきみて
礼をすくるる國分ちへそのくくいとり。元寇ちる貞の山墓へ。歌ウ
ムびをよ向ちる。武勇のいさを〜忠義の誉れ。涙もりのぐくと曉
の滝乃ものさよ今川義宗松を上。根へ長めてるけるよ。我日比
卵まづふるまへ。檀をもつて民ちるーわる事とあひ。又ちる貞の家よ
大岩京内へ異類ふりき者と変化ーーぐんよふふ事へ長にるると
世俗の好よ遠いとと。梅しめづしき妻の涙乃長。忠を励武の
乃をれりしと。滝子ものるれ。滝の水。流れの末れ民盤宗実
妻の日乃知ぐーき者拵ける時代ぞり　文巻終

正徳三年巳ノ正月吉日